

東日本大震災2周年企画

# 被災地の今と声を地域に伝えよう

～明日の震災を生き抜くために～

3.11被災地を巡るⅡ 女川・石巻

2013年3月24日(日)～26日(火)

報告書



旧女川町立病院（背景・高台）と横倒しのビル

2013年6月  
防災塾・だるま

## 目次

		1、2 頁
表紙・目次		
I. 3.11 東日本大震災被災地・宮女川&石巻ツアーの経緯	塾長：荏本孝久	1 (3)
II. 参加者リスト		1 (4)
III. 3.11 被災地を巡るII (石巻・女川) 企画概要		1 (5)
IV. 地図		1 (6)
V. 3.11 被災地を巡るII (石巻・女川) 行程概要		5 (11)
VI. レポート集 目次		1 (12)
レポート集		31 (43)
VII. まとめ：一歩・一歩	副塾長：池田邦昭	1 (44)
資料編		
※ お世話になった方々 (PPT：田中喜世美)		2 (46)
※ 被災地の今と声を地域に伝えよう (PPT：田中晃)		6 (52)
※ 質問：荏本教授 ⇄ 回答：阿部養建設株式会社・阿部靖弘社長		5 (57)
※ 「まちづくり談義の会」チラシ		1 (58)
※ 石巻・女川報告会 (成松洋記)		3 (61)
※ 「まみおの会」の紹介		3 (64)
※ 「防災塾ダルマ」紹介チラシ		1 (65)
※ エルファロの紹介&裏表紙 (編集後記)		1 (66)
(敬称略)		

## &lt;3.11 東日本大震災被災地・宮城県女川&amp;石巻ツアーの実施経緯&gt;

2013年4月27日

「防災塾・だるま」は設立以来8年目を迎えようとしています。その間、地域防災活動に熱心に取り組んでおられる市民の方々が集まり、防災情報の共有化と人的ネットワークの構築を目指しています。

毎月第4金曜日に定例会を開催し、合わせて「防災まちづくり談義の会」を主宰して、講演会やシンポジウムを開いて防災情報の普及・啓発に努めております。

この活動は、座学が中心で防災に関する知識を蓄積することが主なものでありました。「防災塾・だるま」の創設以来、幾つかの地震災害が発生して多くの被害が生じる事態が起り、地震防災活動を標榜する活動団体として、実際の被災現場を見て体験することの重要性が会員の中から湧き上がり、震災発生後に現地に行く企画が検討されました。

そのような経過から、まず初めに1995年阪神・淡路大震災の被災地神戸で毎年1月17日の未明に開催されている「1.17 神戸の集い」に参加しようと言うことが決まりました。そして、被災地の復旧・復興の様子を見に出掛け、合わせて神戸の被災者の方々のその後の取り組みや、体験談などのお話を伺う企画を実施しました。大変有意義な企画となり、その後も継続的に神戸に伺う活動を続けることになりました。

2004年、新潟県中越地震の際には2年経過した時点で、初めて現地に行くことができました。中越防災安全機構の皆さんに大変お世話になり、現地長岡市を中心に被災状況と被災された住民の方々との交流をもつことができました。それにより、大変大きな経験を積むことができ、会員相互にも大きなチームワークを築くことができました。

その後、機会があるたびに被災地へ赴き、被災地の状況を肌で感じる機会をもつことを積極的に実施して活動が重視されるようになりました。

2011年に発生した東日本大震災では、目を疑うような膨大な被害を映像で見て、なかなか被災地へ行くこともできない状況の中で、約1年経過した2012年3月に現地ツアーの企画が立ち上がり、実施する思いを強くいたしました。

この時は、岩手県山田町から宮城県名取市に至る被災地を巡ることができましたが、時間的に女川町と石巻市に行くことができず、被災地の中でも極めて大きな被災状況を呈した両地域を訪ねられなかったことは、課題を残すこととなり、機会を見つけて両地域へのツアーを実施することになりました。

そのような訳で、2013年3月に2度目の東日本大震災の被災地視察として、女川・石巻ツアーが実現することになりました。今回のツアーのテーマは「3.11 被災地を巡るⅡ（石巻・女川）」ということで、現地においてなるべく多くの方々に接し、お話をお聞きすること

を目的としました。そして、この機会を実現させるため、現地で支援活動を展開している「女川 石巻復興支援ボランティア まみおの会」の竹内麻未さんに全面的なご支援を頂きました。

現地で訪問する場所やお話をお聞きする方々を紹介していただき、大変お世話になりました。心から感謝の意を評し、御礼を申し上げたいと思います。 荏本孝久記

## Ⅱ.参加者リスト

～男性：15名、女性：6名 合計：21名（内：防災塾・だるま会員 19名）

	氏名（敬称略）	住所	防災塾・だるま 会員番号
1	荏本 孝久	横浜市港北区	009
2	池田 邦昭	横浜市緑区	002
3	小原 茂	横浜市磯子区	016
4	山田 美智子	平塚市	055
5	小早川津江乃	横浜市南区	107
6	田中 晃	横浜市緑区	063
7	佐々木 義雄	横浜市緑区	096
8	大西 正男	横浜市神奈川区	077
9	玉井 裕利	横浜市磯子区	089
10	石井 栄一	足柄郡大井町	106
11	山田 富士男	足柄郡大井町	099
12	山口 昭	横浜市磯子区	043
13	片山 晋	横浜市磯子区	057
14	高江洲 寛幸	横浜市鶴見区	093
15	北原 雪子	横浜市緑区	115
16	ダニエルナバロ	スペイン	一般参加
17	田中 喜世美	横浜神奈川区	050
18	福島 真理子	川崎市中原区	124
19	新井田 春江	横浜市西区	125
20	岩楯 敏広	横浜市港南区	会員
21	中川 和之	山形市	会員

### Ⅲ 3.11 被災地を巡るⅡ（石巻・女川）企画概要

1.参加者 男性：15名、女性：6名（うち 防災塾・だるま会員19名）

（参加者氏名：2ページ≪参加者リスト）参照）

#### 2.スケジュール・行程

前泊 オプション 3月23日（土）

福島県 浪江町～南相馬

第1日目 3月24日（日）『宮城県』

石巻市～女川町～雄勝町～ ～女川町

（宿泊：トレーラーハウス・エルファロ）

第2日目 3月25日（月）『宮城県』

女川町～石巻～女川町

（宿泊：トレーラーハウス・エルファロ）

第3日目 3月26日（火）『宮城県』

女川町～石巻市（午後3時 石巻駅にて解散）

オプション3月26日（火）午後3時～3月27日（水）

石巻市～女川町～鮎川町～気仙沼

#### 3.お世話になった方々

##### 石巻市

- ・雄勝硯生産販売協同組合 事務局長 千葉 隆志氏
- ・大川小学校 校長 千葉 照彦氏
- ・NPO 法人 DoTank みやぎ 理事長 遠藤 学氏
- ・「まみおの会」石巻 山根 康宏氏
- ・株式会社 山形屋商店 取締役 山形 政大氏
- ・石巻社会福祉協議会 災害復興支援対策課  
仮設住宅入居支援事務所 課長補佐兼副所長 阿部 由紀氏
- ・石巻ニューゼ 館長 武内 宏之氏
- ・石巻観光協会 専務理事 浅野 清一氏
- ・南三陸観光バス株式会社 社長 高橋 武彦氏  
運転手 辻氏

##### 女川町

- ・女川町会議員 阿部 薫氏  
哲子夫人
- ・有限会社 阿部養建設 代表 阿部 靖弘氏
- ・女川さいがいエフエム 代表 松木 達徳氏
- ・宿泊所：エルファロのみなさま
- ・「まみおの会」 代表 竹内 麻未氏
- ・「まみおの会」 横浜 渡辺 信子氏

# IV.地 図

石巻・女川

3月24日(日)



Google 地図より

25日(月) 26日(火)



- A 石巻社協：宮城県石巻市中央二丁目4番20号
- A 石巻ニューゼ；宮城県石巻市中央2丁目8-2
- B 石巻観光協会：宮城県石巻市鑄銭場8-11
- 石巻駅：観光協会の側

徒歩10分

# V. 3.11被災地を巡るⅡ（石巻・女川） 行程概要

## 第1日目 24日（日）

10:00 仙台駅 出発

11:30 石巻駅 出発

（夜行バス組）7人合流

12:00頃 お腹をすかせて

女川復幸祭 会場女川第一中学校に到着

串焼き・おそば・お餅・カレー・海産物販売・ほか

イベント：歌謡ショー・ドジョウすくい・餅つき大会他

13:30迄 自由散策・各自昼食



### 女川町商店街復幸祭

人口流出が不安な女川に活気を！

町外の方々に、女川の魅力を知ってほしい！

・・・とにかく私たちの故郷・女川に遊びに来て下さい！そして、女川の現状を見て、感じて、ここに生きている私達と共に楽しんでください。（主催者からの声）

\*イベントや焼きさんまの試食もあります。



13:15 → 14:15 移動（雄勝）

【「NPO 法人 ToTank みやぎ」理事長・遠藤さん、石巻市民・山根さん、ここから一緒に行動】  
道中、遠藤さん・山根さんから現状について説明して頂きました。

\*バスの運転手さんの計らいで、

日本で初めてという3階建ての仮設住宅を見せて貰いました。

総合運動場の敷地の中に作られています。

普通の団地のようなようでしたが、しっかり作ってあるマンションとは違って上下の音や周りの気配と音が気になるようです。

やっぱりそうなのかなと思いました。

14:15 → 15:15

雄勝硯生産販売協同組合 高橋頼雄さんのお話

\* 雄勝硯は高品質で有名。

\* 東京駅の屋根には、この地域のスレートを使っている。

最近は流れた屋根のスレートなどを使ったりしてかなり上質の装飾品などもある。

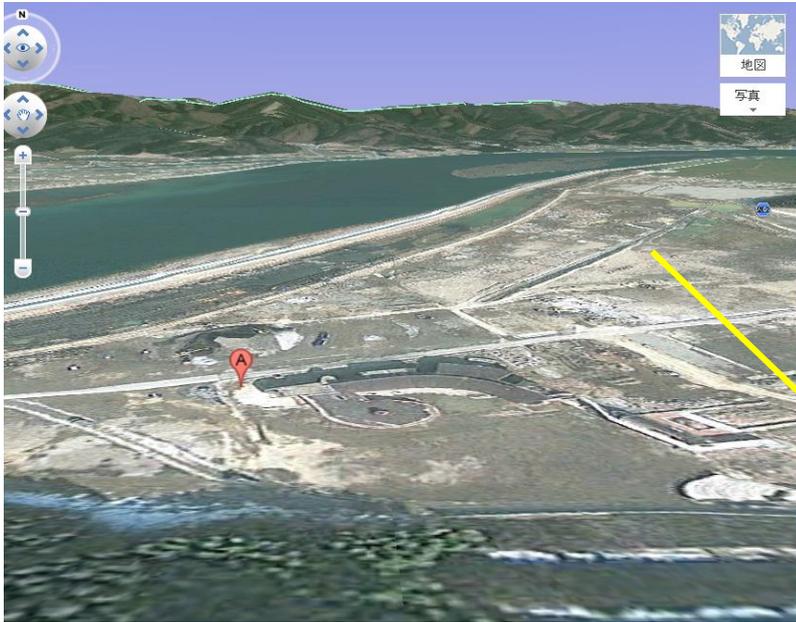
\* 雄勝仮設商店街 お買いもの



# 伝えたい!! 本気の心・みんなの思い!

## 大川小学校

千葉校長先生にお話をお聞きしました。 (学習発表スローガンより)  
現在は飯野川第一小学校内に間借り開校し、生徒の指導をしている。  
元、大川小学校の副校長。3.11 当時は湊小学校の校長先生。  
門脇町の湊小学校も被災して大変だったが、無事避難できた。



おしゃれで近代的な建物の  
大川小学校



この界限です。

(google 地図より)

地盤沈下で水に浸かった広大な土地。土嚢を積み排水をし、近くの山を削り、嵩上げ工事をしている。広すぎてなかなか進まない。(大川小学校A周辺) 対岸は被害が大きかった十三浜あたり

### 17:30 出発

時事通信社山形支所の中川さんの車で、3 人の日帰り組の方々を仙台駅まで送って頂き、中川さんは山形へ。ありがとうございました。

バスはエルファロへ

### 18:20 女川 「エル ファロ」着

### 18:30 夕食 「エルファロレストラン」

\*お食事の際、山根さん・遠藤さんから現在の状況についての、お話をして頂きました。



HP 参照



「NPO 法人 DoTanK みやぎ」理事長・遠藤学さんは、永く繋がり地域が自立出来る支援が必要。

## 第2日目 25日(月)

7:30~8:00 朝食(エルファロ レストラン)

8:00~8:30

\*宿周辺自由散策、ここにも津波のつめ跡が!



エルファロ・遠藤さん

8:40 → 10:00

\*町議員・阿部薫さんの自宅付近にて、哲子夫人から3.11直後の被災の状況と避難生活を、阿部薫さんから日頃からの心構えなどのお話頂きました。

\*自宅裏の空き地で30~35人が避難生活をしていました。津波で流されてきた冷凍の魚や各自宅の冷蔵庫の中から持ち寄った食料を鉄板で焼いたり、おじやにして食べた。水は山からの湧水を使った。トイレは、裏の山で済ませた。

\*役割分担やコミュニケーションなどは、後から生まれた。自然の中での避難所生活の方が心身のためには良かったなど。



10:00 大幅遅れでバス出発

JR女川駅から浦宿駅に抜けるトンネル

女川湾から襲ってきた津波で、トンネルに瓦礫などがつまり塞がれたので、反対側の地域の被害が少なくて済んだ。女川駅からトンネルまでの地域は何もなく、山を削って嵩上げしなければ住めない。5~6m位の嵩上げの表示板有。

10:20 → 11:10

\*旧女川町立病院(海拔14m、に建っている女川病院の1階(1.9m)まで水没、駐車場に避難していた人たちと2階まで自力で避難できなかった方々が犠牲に。

\*熊野神社は病院から200段の階段を上った所にある。復興のための工事が進みつつある女川町と女川湾を一望できる。

\*「災害FM」病院の前の仮設から地域のための情報を発信している。丁度来て下さった責任者の松木達徳さんから、地域密着の情報発信の苦労などのお話をお聞きした。

11:30 → 岡清ではお寿司をテイクアウト



11:50 → 12:45 (昼食)

コンテナ村・きぼうの鐘商店街でお買い物。

\*バスの中又は外で随時昼食。

雪が舞う日で、寒風の中、寒さも一段強く肌に刺した。「おかせい」のお寿司は美味!

12:50 → 13:20

マリパル女川

海産物等のお買い物。

蒸し牡蠣は美味! 焼き芋も美味しかった。

お店は津波の被害を受け、一度は再開を諦めたそうです。「もう漁はできない、魚を獲っても売るところがない」とうなだれる漁師さん達に「自分達も店を再開する、だから魚を獲ってきて欲しい!」と、いち早く営業を再開しました。女川水産加工研究会のメンバーとしても活躍中。



この後

\* 石巻の被災地地域を回りました。

13:40 → 14:00

日和山から見た門脇町周辺

日和山公園

\* 石巻市が一望できる公園です。

\* 見渡す限り何も無い空き地と所々に1階部分にブルーシートで囲い2階に済んでいるという家がちらほら見えた。敷地跡にはたくさんの住宅の土台だけが寂しそうに並んでいた。

門脇小学校

\* 6~7m位の津波で流されてきた瓦礫や車等から流れ出た油などに引火。門脇小学校は全焼。子供たちは先生方の機転で、学校の裏側の窓に教壇を渡して日和山公園の方へ逃げたという。犠牲者がいなかったそうで良かった。

小学校の時計は5時10分位で止まったまま焼けていた。

グラウンドは片付けられて、最近では子供たちに開放されているようだ。



\* 石巻高校~石巻市立病院・津波と地盤沈下で水に浸かってしまっているレストラン~並んで海岸地域に建っていた。石巻女子高校は取り壊し・渡波中学校は移転が決まっているそうです。



14:50

\* えくれーるで休憩。

美味しいお菓子を買いました。

15:30

「丸平かつおぶし店」でお買いもの\*海産物加工食品が美味しかった。

明治36年から創業。3月11日、津波はすべてを流し、「夢」までも流してしまった。その後、沢山の応援の声や支援を頂き「希望のかつおぶしで復興」に向けて歩き出した。



15:40~16:30

山形屋商店 取締役 山形 政大さんのお話。

\* 震災から現在までの、被害工場を見ながらお話をお聞きした。山形屋さんのような製造業の復興は難しい。何か支援できる案があればよいのだが。

\* しょうゆ・味噌・味噌汁他お買いもの

バスにて移動~大街道~南浜~海岸線~漁港~牧山  
石巻漁港、海産加工工場地帯 中瀬、など見ながら~



18:00→19:00

食事[ニューこのり]

活穴子天ぷら定食



19:30 エルファロ宿泊所 到着

旧女川町立病院から熊野神社に上る階段横に復興モニュメントが見える(夜・バスの中から)

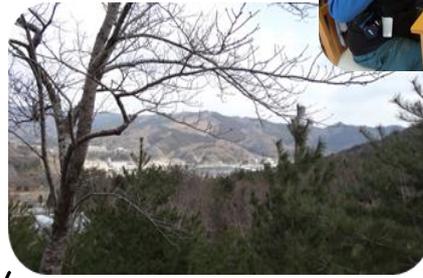
### 第3日目 26日(火)

7:30~8:00 朝食(エルファロ レストラン)



8:50 → 9:00

女川湾を一望する「海に見える桜の公園」  
桜はまだまだ!



9:15 → 9:50

阿部養建設社長兼一級建築士 阿部靖弘さん

- \*自分の土地を提供して作ったコンテナ村でお話。輸入材木で作ったコンテナハウス。
- \*地元の木や間伐材は高い。使用していない。
- \*横倒しの建物のある女川周辺にてお話。当日は横殴りの雪でした。
- \*3.11の時も雪が降っていたのを思い出し、心身凍る思いでした。

女川~石巻に移動

10:30 → 11:30

石巻社協 阿部由之さんのお話

- \*専修大学との連携で臨めたのが良かった。現在も継続中。



11:45 → 12:50

石巻ニューゼ(石巻日日新聞)館長 武内宏之さん

- \*3/12-17 手書きで新聞を作成。6部作成し、各避難所等の掲示板に掲載
- \*3/18 電気が来たのでコピーをして配布。
- \*3/19 から印刷できた。(水に浸かった印刷機をきれいにして印刷)

13:00~ (昼食)

\*石巻観光協会にて石巻焼きそば。  
観光協会にて場所をご提供いただきました。



13:30 → 14:30

石巻観光協会 専務、浅野清一さん。

- \*突然にも拘らず、快くお話をして頂いた。
- \*この周辺は、津波の被害よりも浸水被害が多かった。観光協会としての役割も大切。
- \*お土産のお買いもの(出発の時間まで)
- \*焼きそばせんべいも、石巻のおすすめ品。

15:00 石巻駅(第一次解散場所)

↓夜行バス 4名

気仙沼経由 3名

仙台駅までバス 10名 (仙台駅にて解散:新幹線組8名 仙台から車組2名)

\*高速で仙台に向かって右手に、「へびた地区」という集団移転用に嵩上げされた広い土地が整備されているのが確認された。いろいろと賛成反対があるようだ。 以上

2013年3月24日(日)～26日(火)

テーマ 東日本大震災から2年 被災地の今と声を伝えよう

—明日の震災を生き抜くために—

## 目次

- \* 福島県南相馬を巡って・エルファロ灯台のまわり 池田邦昭氏 ---13 (2)
- \* 被災地の今と声を地域に伝えよう 田中 晃氏 ---15-16 (2)
- \* 東北ツアー報告 片山 晋氏 ---17-20 (4)
- \* 石巻・女川。気仙沼他 見聞記 山口 昭氏 ---21-26 (6)
- \* 石巻・女川・気仙沼視察 玉井 裕利氏 ---27-29 (3)
- \* 石巻・女川紀行 佐々木 義雄氏 ---30 (1)
- \* K21 ハウスの訪問 小原 茂氏 ---32 (2)
- \* 被災地を訪ねて 小早川 津江乃氏 ---33 (1)
- \* 女川視察 石井 栄一氏 ---34 (1)
- \* 女川ツアーに参加して 北原 雪子氏 ---35 (1)
- \* 石巻・女川ツアー 福島 真理子氏・新井田 春江氏 ---36 (1)
- \* 南三陸観光バス株式会社 田中 喜世美 ---37-38 (2)
- \* 「3.11 被災地を巡るⅡ」 山田 美智子 ---39-41 (3)
- \* 急がせない復興 中川 和之氏 ---42-44 (2)

日時： 3月23日（土）午後  
地域： 福島県南相馬市域：原発20～30km圏内  
参加： 池田・岩楯・荏本・ダニエルさん  
          （案内）：中川さん  
経路： 東北自動車道、二本松ICを下車  
          東進し、国道6号線を南下

### 感想1.

警戒区域外にもかかわらず、2年経過後も、津波の被害のままの集落や車輛が残されていた。その附近は全く人影がなかった。

（注）国道6号から海側に数百m入った場所で特に分かりにくい場所ではない。問題の根深さを物語っていると思う。

### 感想2. 生活感を感じない

（1） 日常生活を過ごしている印象がない。

例・ 窓が閉じ、カーテンが閉まった家が大部分

- ・ 洗濯物がない（室内干しなのか不明）
- ・ コンビニ、スタンドが目立つが人通りがない

（注）車輛は普通に走っているし、中心街は、多くの店舗が営業していた。

（2） 3月お彼岸頃の田畑は、何も耕作されていないのが普通なのか？



2013年3月24日(日)～26日(火)

「まみおの会」竹内麻未さんの紹介でお世話になりました。

### ※ 宿：エルファロ

女川の被災地の跡に、仮説の宿泊施設のトレーラーハウスが建設されました。仮設と言いながらも、ツインルームには冷暖房、バス・トイレ付きと日常と変わらない生活が出来ました。(避難所を考えると、これで良いのかと、ちょっと考えました！)

### ※ 宿の場所

女川の河口から約2 km上流にあるエルファロの付近は見渡す限り殺伐と光景が広がり、わずかに作業宿舎とかろうじて残った数戸しかありません。この宿泊施設も、以前戸建住宅の跡地を利用して完成したとの事です。

### ※阿部さんのお話

エルファロから数百m上流に住む、阿部さんの話では、激流の津波が右岸、左岸と変えながら。直撃を受けた岸は、ほとんど全滅し、阿部さん宅附近でかろうじて、止まったとの事でした。

そして、自宅脇の空き地で、20～30人の住民が20日間を野宿状態の生活を過ごしたとの事でした。

### ※3回忌・お彼岸

——突然の災害に、ご冥福をお祈りします——

エルファロから、200～300以内で、私が見た「お花の献花、その一つにはステッキが添えられていました。」



池田記

## 被災地の今と声を地域に伝えよう

～明日の震災を生き抜く為の～

25.4.2 田中 晃

### 1. 石巻市社会福祉協議会が災害ボラセンを4日後の3月15日に立ち上げた。

- ・新潟中越や東北の地震で職員を派遣しており、半分以上の職員が震災を経験している。
- ・デイサービスセンター・障害者支援センターを持ち、福祉の総合技術を持つ。  
(今回の地震で、職員 241 名中 100 名が自宅の全半壊の中で活動した)

#### <実施したこと>

- ・石巻専修大学と石巻市が「災害ボラセン」を 3 月 15 日に設置。調印は 23.3.31
- ・無線機で職員の安否確認をまず実施。

・受付班（登録）、ニーズ班、マッチング班、総務班 47 名体制、  
報道対応は一元化した。一般住宅と店舗兼住宅の復旧支援活動を柱としている。  
ボランティアの派遣調整 NPO 連絡調整会議を毎日夕方 7 時に集合し実施。

その後協議会へ 342 団体 派遣人員 15.8 万人 海外 19 か国

- ・ボランティア機能別チーム

① 炊出し ②メディカル ③リラクゼーション ④心のケア ⑤子育て支援 ⑥移送  
⑦泥だし清掃 ⑧生活支援（仮設支援） ⑨地域行事のサポート ⑩避難所の衛生改善  
他に 自衛隊との炊き出し調整、7ブロックでがれき処理の・清掃活動 など

- ・仮設住宅入居者支援 石巻市から受託 巡回訪問、仮設サロン連絡調整会議

#### <社協職員の評価>

- ・日本人は災害の準備をし自分を変えるべき。市役所と消防を責めず、自分を責めなさい。
- ・津波で、位牌を取りに行く 10 分で、風呂敷きを背負ったままなくなっている。
- ・行政と民間をつなげるのは社協だけ、毎日の NPO 連絡会は良かった。若者が支えた
- ・有給職員はもっとやるべき。宿命だ。

### 2. 弱者の視点で眺めるといろいろの参考事例があった。

△・小学生は、泣き叫びうずくまった。

・心のケアは、小中学校生にはあるが、幼稚園生・保育園等の幼児は対象外であった。  
遊び場がないので震災の現実がよみがえりトラウマが発生していた。

・統合失調症の人がパニックになり、薬も飲まず、避難所で大変だった。看護師が最後は  
対応し落ち着いた。△心のケアチームが3日目から入った。

△湊小では要介護者を集めた教室を開いた。

△ヘルパーがマッサージやおむつ交換を実施。体力がなくなり高熱、食料の補給が必要。

△ストレスでまぢに入るのは怖い。当時の惨状を思い出す。

### 3. 自宅付近での生活の視点

- ・家の裏の空き地に 20 数人で生活した。（右写真後方）

- ① 名簿をつくり、避難所に届けた。近所以外の方もいた
- ② 3 日は飲まず食わず。冷蔵庫の中のものを拾い集め、



おじやにして日2回食べた。最後は玄米になった。

③ 順番に分担を決めた。男は焚火、料理の得意な人は料理と分担が決まっていた。

- ・避難所では、沢山の人がおり、食料も1日にパン半分・おにぎり1個で少ない。
- ・避難所において、4日目には歩けなくなった。

△医療対応が必要：打撲、アキレス腱一部断裂、筋肉の打撲、大けが  
低体温症（門脇小で4人死亡）、過呼吸（女川第一中で6名）

## 4. トイレ対策

△避難所では下痢や嘔吐がはやった。尿を漏らす人もいた。

△子どもは何回もトイレに行く。

・3項では、自宅付近での生活で、各人が家や自然の中で排泄した。自宅での生活者は用足し場を作ったようだ。

△男女別の仮設トイレを小学校屋上に設置。敷地のはずれに穴

・トイレは皆で使いきれいにした。△一日1回スタッフ（若い人）排泄物除去は最初先生、その後避難者。（排泄物は川に捨てたかの問いには否定せず）

△「小」男性は屋外、女性は便器に貯めて流さない。

「大」用便器に新聞紙を敷いて押し込み、その上に用を足す。（水は流さない）

・女川の祭りで、トイレに長蛇の列ができていた。



## 5. 産業の復活(生活の場の確保)

- ・水産業の再生は徐々に立ち上がっている。加工・店舗販売・インターネット販売
- ・製造業は遅れている。味噌醤油の山形屋は設備が破壊され委託製造の域を出ていない。雄勝硯生産販売協同組合ではボランティアの協力で石を集めたが、一時的である。
- ・水耕栽培の話はあるようだが、具体的に伝わってこなかった。
- ・スピードアップのため「まみホの会」のようなマッチング団体が活躍している。不公平な物資の中で不足分の調整、余った布から女川草履等を開発、東急ハンズへ地元物産品を探し販売、企業と得意分野を融合など市役所の間立てるようになった。バーベキューも行い、融和を図った。
- ・NPO 法人 DoTank の遠藤さんはコミュニティービジネスマイスター

以上

△は、下記文献から追加

津波からの生還 三陸河北新聞社 まげねっちゃ（まけないぞ）青志社

(断片的に印象に残った所の報告と感想を記します。)

### 3月24日、石巻の午前

夜行バスは6:40頃に到着。片山が勤務していた会社石巻駐在所の鈴木正一氏が出迎えてくれ、山口さん玉井さんと私の3人を、主として牡鹿半島の漁港を案内してもらった。鈴木氏は、3.11の時釜石市内の沿岸部でトラックの陰で津波に気付かず、車に乗ったまま流され、立ち木に当たって止った時に車から脱出し、ずぶ濡れのまま近くのトラックの上で長時間過ごした。トラックの運転手は助かったのか分らず、自分は命拾いしたとのことでした。

1. カキやホタテもやっと復興しつつあるものの2年間のブランクで販路が無くなり、加えて風評もあり本格復興は遠い道のりのようだ。

船や網など無くした者の再興は大変であるが、復興特区として大手経営の会社組織に参画することが進められている。そんな中で、船を移動させている中年の漁師が居た。その人は自分の船で今まで通り

漁を続ける決心をしたが、特区制度で従来から使用していた岸壁が使えなくなり、別の場所へ移らなければならないとのこと。

漁師も高齢化と後継者不足が進む中、若者の多い地区もあり、そこでは皆で明るくワカメの処理をしていた。

2. 悲劇の「大川小学校」に関していろいろと聞いてはいたが機転を利かせば多くの学童が助かったと思われる。老人でも危機感がある時には十分に登れるような裏山が学校に隣接していた。

現場を見てこんなに近いのだと驚いた。

改めて臨機応変の適切な判断が大切と思う。

3. 一方、「門脇小学校」の火災から教壇を渡してうまく逃げた現場と思われるところを見ることができた。パニック状態の中で機転を利かせて対処できるのも、平常な日頃に色々と考えておくことが大切で、「大川小学校」と「門脇小学校」そして昨年の「釜石東中学校」を見て、応用の効く防災・減災への啓発活動推進への思いを一段と強くした。



莖ワカメの処理をする若者



大川小学校と裏山



門脇小学校の裏手

4. 災害FM局は特別処置として東北被災地に開設された。災害時には広域の放送局でなく、地域密着の情報を吸い上げ発信する放送は被災地生活に大きく役立つ。

女川災害FM(JOYZ 2AG)はNHK テレビでいろいろと取り上げられた。

横浜においては、コミュニティーFM局が既に存在する区もあるが、災害時には何局かを立ち上げ一定期間の運用を行うことの準備をしておくべきだろう。



女川災害FM局 (79.3MHz)

5. 丘の上にある女川町立病院の1.9メートルの高さまで津波が来たとのこと。ビルが横倒しになり更地になった路面から見ると津波の高さが実感できる。

(病院の標高は15.5m。

津波の高さは  $15.5 + 1.9 = 17.4\text{m}$ )

こんな高さの津波を防ぐ防潮堤を作るのは賢いやり方ではない。100年後、1,000年後には、例えば町全体をメガロフロート上に作るなど・・・はるかに進んだ英知を期待したい。



女川町立病院 (丘の上)

#### 6. 復興のあり方

1年前と比較し現地の復興は少し進んではいるが、まだまだ先は長い。そんな中で多くの沿岸地域では居住制限地域に指定されたり、地面の嵩上げやら町ごと高台移転、また防潮堤の建設などが決まったりして、復興には長い年月がかかる状況にある。嵩上げしても防潮堤を建設しても、1,000年に一度の津波には役立たない。

遥か沖合いに建設した潮位計や地震計で津波をいち早く検知し早期警報を出して避難誘導するシステム技術は現在でもあったが、通信回線のトラブルで機能しなかった。しかし、100年に一度の津波として考えても、今後の津波予知と警報伝達そして避難技術は今後大幅な進歩が予想され、犠牲者の減少を達成する手段は多々考えられるのではないかと。

3. 11以前の土地に津波を考慮した建築基準を加えて家の建築を許可し、現実的な復旧を速くすべきではないか。時間がかかれば流出人口も増加する可能性がある。

#### 7. 防災・減災について

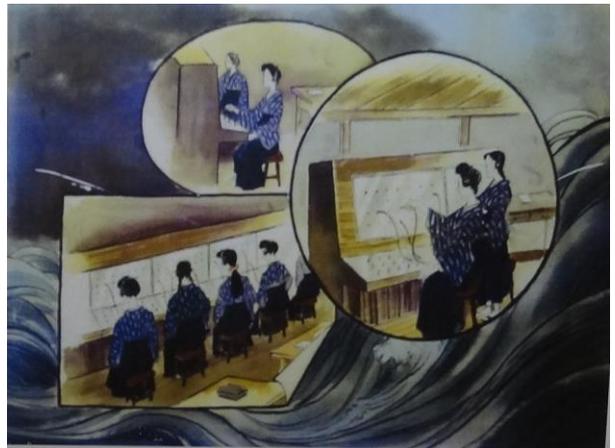
1,000年に1度といわれる大災害ではありましたが、首都圏に阪神淡路クラスの地震が発生したり東海・東南海・南海の連動地震が発生したら、その被害は3.11とは桁が違います。

「防災塾・だるま」も防災・減災への提言を全国へと発信を始める段階ではないでしょうか。

## 8. 唐桑半島ビジターセンター

27日は気仙沼漁業協同組合、気仙沼ほてい櫛、気仙沼市役所を訪問したあと、午後2時半頃に、解体される「第十八共徳丸」を見て、玉井さん推薦の唐桑半島先端に近い「唐桑半島ビジターセンター」を訪れた。こんなところにこんな施設があったの??と驚いた。津波シアター、津波発生模型、津波の歴史e t c. といろいろある津波資料館だった。展示されていた津波の絵のみご紹介します。





以上

石巻・女川・気仙沼他見聞記・同行者（敬称略）：片山晋、玉井裕利、山口昭

平成25年3月24日朝6時40分夜行バスにて石巻駅前に到着、「防災塾・だるま」集合時間まで片山さんから紹介して頂いた鈴木さんのご案内

★ 捕鯨に灯再び 石巻・鮎川港

牡鹿半島にある鮎川港に大震災後捕鯨船が戻りツチクジラを水揚げ 千葉県銚子沖で操業 船2隻で2頭を捕獲事務所、解体場を失ったが約1億5千万円かけて再建 被災した2隻も修理



おしかホエールランド

朝日新聞記事

★ 慶長遣欧使節 慶長18年（1613年）仙台藩主伊達正宗がフランシスコ会宣教師ルイス・ソテを正使、支倉常長を副使として、エスパーニャ帝国（スペイン）の国王フェリペ3世、バチカンのローマ教王パウルス5世のもとに派遣した使節サン・ファン・パウティスタ号で牡鹿半島月が浦を出帆



支倉常長銅像

慶長遣欧使節の経路

海側に大きな亀裂がそのままに

★ 江戸時代石巻港は、北上川水運によって南部藩領から米が下り、河川交通と海運との結節点として日本海側の酒田港とならんで奥羽二大貿易港として有名。旧仙台藩内唯一貨幣の鑄造を許され「鑄銭場」という地名が残る石巻とその周辺は仙台藩から分離 高崎藩取締地⇒石巻県⇒登米県⇒仙台県⇒宮城県



石巻城址案内

日和山

日和山から漁港の遠景

★ 魚の町 石巻復興物語 沿岸戻らぬ人手 便利さと安全 両立探る（H25. 3. 13毎日新聞）  
 港から400m内側を海岸線と平行に走る県道を 4.5m土盛り嵩上げて堤防機能を持たせる県の計画。  
 山側に抜ける交差点は5か所程度。昨年の石巻漁港の水揚げは震災前の42% 市内水産関連会社20  
 6社のうち、144社は事業再開。大量の魚の買受けに不可欠な冷凍・冷蔵庫も震災前の7割程度が復  
 旧。石巻市内の水産加工を含む「食料品」の有効求人倍率（1月）は全国平均0.85倍に対して2.  
 89倍と突出。「津波の不安から海沿いで働く事を敬遠する人はなお多い」（ハローワーク石巻）



24日朝 漁港で「わかめ」の処理作業 漁業特区の犠牲者？の船 一人で操業するカキ養殖の水揚げ作業

★ 株式会社山形屋商店 明治41年創業

100年を超えて石巻で仙台味噌、醤油を製造 津波で全壊、一度は再建を諦めましたが、みなさまのお見舞いや暖かいお言葉を頂戴して復興への決意を固めました。現在は工場が被災し商品製造が困難な為 当社の処方で委託製造した商品を販売する形で営業を再開しております。



株式会社山形屋商店 場奥の石垣2m迄津波が遡上 内部タンク類 泥水はボランティアが処理

★ 石巻専修大学の奮闘・施設を開放、災害拠点に（1988年（昭和63年）石巻専修大学開学）  
 3月11日午後6時30分 停電 自家発電がとる大学に近隣住民100名以上が集まる。  
 地震発生時には教職員と学生ら計約300名がいた。指定避難場所ではなく備蓄の食料や水に限りあり、  
 「大学としては学生を守るのが第一だが、人が入れる場所がある以上知らん顔はできない」当時学生部  
 長だった理工学部山崎省一教授が教職員と話し合い避難者の受け入れ決定。12日には近隣の避難所  
 に入れない人が押し寄せた。市も避難者の大規模な収容を要請。1日最大約1,000人の市民が暮らす避難  
 所が誕生。42万平方メートルの広大な敷地に体育館や多数の教室があり自家発電を備える大学は一気  
 に重要拠点となった。坂田隆学長は「震災で真っ先に役立ったのが大学が持つハードだった」と語る。  
 市や自衛隊、日本赤十字社など外部機関が次々と協力を求め、13日にはグラウンドに臨時ヘリポート完  
 成。15日にはボランティアセンターと救護所が設けられた。  
 グラウンドはボランティアがテントを張る用地になり、延べ9万人が利用した。

市社会福祉協議会大槻英夫事務局長は、「地震後広い敷地と頑丈な建物がそろった場所は残っておらず大学の存在に助けられた」と感謝。学生も13日朝、残っていた約150名を8グループに分け教職員の手伝い、トイレなどの清掃、救援物資の仕分け、駆けつけた保護者の対応に従事。作業は山ほどあった。4月28日最後まで残った避難者約30名が退去し、大学は避難所の役割を終えた。

大学教職員は大勢の避難者等の対応に追われる一方、学生、大学院生計約1,900人の安否確認という重い課題に直面していた。12日朝学生の住所や連絡先を管理するサーバーがある棟には、自家発電の電気が供給されていない事が判明。紙の名簿から沿岸部に住む学生を抜き出しリストを作成、電話の復旧と同時に一斉に安否確認に取り掛かる。

12日専修大学（東京）はホームページ上で石巻専修大の学生に安否を連絡するよう告知。仙台に住む教員は手持ち名簿をもとに学生に電話をかけた。

石巻、仙台、東京に寄せられた学生からの電話を集計できたのは21日。1,675人の安否が確認できた。被災した学生は約400名、5月20日大学再開にこぎつけた。



ボランティアのテントが並ぶグラウンド・学生や市民が避難した大学構内（大学提供）・大学正門 広大な土地 後方にグラウンド（H23年8月12日 河北新報）  
（H23年3月11日午後4時5分頃）

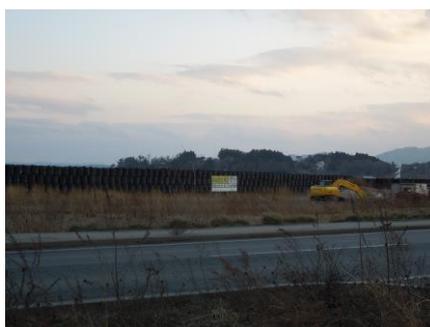
★ 「東北の湘南」とよばれる大谷海水浴場

美しい白浜の砂岸が広がり「日本の水浴場88選」にも選定。遠浅なので子どもでも安心して遊べ、家族ずれにも人気が高い。（宮城県観光ガイド）現在は黒い防潮堤の袋で囲まれている。

「計画堤防高さ TP+9.8m 高さはここまで」気仙沼市の大谷海岸に電柱の様な看板、TPとは「東京湾平均海面」ここに；9.8mの防潮堤が建つ計画。9キロ南の海岸には14.7mの防潮堤が計画されている。（H25.2.6日毎日夕刊）



被災後の大谷海岸



現在は黒い防潮堤の袋の列



被災前の美しい海岸

★ 気仙沼市 復旧・復興事業の取組状況と課題（H25.1.19）

(1) 市土基盤の整備

- ① 防災集団移転の状況 大臣同意済 36地区 3月同意見込 2地区

課題：移転先の地権者の同意・埋蔵文化財調査

- ② 災害公営住宅の状況 10月に地区毎の戸数・タイプ公表 19地区 2,000戸を計画  
2地区H27年1月入居開始予定

課題：建築単価上昇、公共・公益施設、産業、業務施設、避難施設等の併設計画の財源確保

- ③ 土地区画整理事業の状況 盛土嵩上げゾーン（住宅系市街地）低地ゾーン（商業・工業市街地）の整備、鹿折・南気仙沼2地区都市計画決定、大臣同意H27年度完了予定

課題：盛土嵩上に要する大量の土砂の確保や他のインフラ整備等との事業調整

- ④ 事業地区以外の土地の嵩上げ 鹿折 3.3ha 南気仙沼地区の一部 18.4ha は効果促進事業が認められた

課題：「個人の資産形成に資する」原則論の中、民地に於いて嵩上げに復旧制度・支援がない

- ⑤ 内湾地区復興まちづくりの状況 内湾復興まちづくり協議会で協議中

課題：防潮堤未決定、魅力ある街づくり案の早期決定

- ⑥ 都市公園整備事業の状況

- ⑦ 住宅再建に係わる独自支援策

- ⑧ 海岸防潮堤の整備 課題：磯根資源保護、港機能確保、海水浴場、砂浜・景観維持

- ⑨ JR気仙沼線及びJR大船渡線の復旧 BRTによる仮復旧

- ⑩ 道路整備事業、災害復旧・改良復旧等の状況

- ⑪ 公共下水道の状況 課題：地盤沈下による既設污水管への侵入水対策、他関連事業との工程調整  
尼崎市職員と同宿翌日初出勤 1年間勤務すること

- ⑫ ガス事業の在り方検討 事業廃止（プロパン化）37億円 事業継承 12億円

- (2) 防災体制の整備 消防車22台購入

- (3) 産業再生と雇用創出 ②水産加工施設等の集積課題：土地買取時の抵当権解除 ⑤気仙沼魚市場整備

- (4) 自然環境の復元・保全と環境未来都市

- ① 災害廃棄物処理事業に係わる損壊家屋の建物解体及び基礎撤去

基礎撤去完了件数 1,350件（申請件数 2,292件の58.9%）

課題：\*土地境界や相続・抵当権などの権利関係、補助対象外業務 \*施工業者不足等により期限内完了は事実上困

- (5) 保健・医療・福祉・介護の充実

- ③災害義援金の配分 \*義援金受付団体・宮城県に寄せられた義援金の支給済額 126億5,783万円  
\*気仙沼市に寄せられた義援金の支給済額 7億2,539万円

- (6) 学びと子どもを育む環境の整備

- (7) 地域コミュニティの充実と市民等との協働の推進

- ①仮設住宅での自治組織の設立・運営の支援 課題：役員等の人材不足、自治活動への消極性

- ②減災の為にコミュニティづくり・自治組織同士のコミュニティづくり

課題：壊滅的な被害を受けた沿岸部にコミュニティ（自治組織）の維持困難、

防災集団移転、災害公営住宅建設により、貴存自治会統廃合や区域の見直しが必要

以上「気仙沼市 復旧・復興事業の取組状況と課題（H25.1.19）」より抜粋

今回の気仙沼訪問は 私の友人を介して (株)電通 新聞局地方部 横関浩一氏 河北新聞社東京支社営業部

副部長山田淳氏を紹介して頂き気仙沼市産業部水産課主幹川村貴史氏 気仙沼漁業協同組合代表理事専務村田次男氏常勤監事熊谷成一氏、参事菅野眞氏、と復興計画の現状のお話しをお聞きすることが出来ました。  
**気仙沼市街地と漁港の現況**

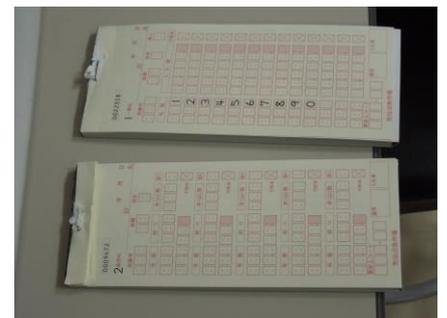


宿泊 大鍋屋旅館 気仙沼のフェリー乗り場近く 1年前と変わらず 歴史的建造物として保存される「男山」



魚市場の1m程度の嵩上げ工事

本日最後のセリ オキアミの箱



岸壁嵩上げの為セリ処理室内部は半地下？ セリ内部 機械で即時処理 入札札 自動集計される



工場前は漁船が並ぶ漁港 工場前で気仙沼を訪れた磯子3人組、後方はセリ前のオキアミの箱

- 「横浜杉田気仙沼応援隊」が贈るさんま用タンク。津波で800基 すべて流失 今シーズンまでに1基 約11万円 5基贈呈の予定
- 気仙沼ほてい(株)工場見学缶詰製造を本日より開始(残念ながらふかひれスーの製造作業は本日もなし)

・「第18共徳丸」「来月にも解体準備」所有会社、市に意向伝達（H25.3.25 河北新報）

東日本大震災の津波で気仙沼市鹿折地区に打ち上げられたままになっている大型漁船「第18共徳丸」（330トン）について、船を所有するいわき市の水産会社「儀助漁業」の柳内克之社長（40）が、24日 気仙沼市役所を訪れ4月にも船の解体作業の準備に着手する意向を伝えた。共徳丸は気仙沼港に係留中に津波に流され、JR鹿折唐桑駅近くに入った。市の要請もあって現場に残してきた。柳内社長は昨年8月、市に解体の意向を伝え今年2月には市と結んでいる無償の貸借契約を3月末で打ち切ることを通告した。



18共徳丸どこへ行く・・・ H25. 3. 27 山口撮影

岩手「普代水門」の建設に尽力 故和村村長の功績後世に顕彰碑除幕（H25. 3. 25河北新報）

村長 故和村幸徳氏（1909～97年）の功績をたたえる顕彰碑の除幕式があった。震災で遠隔操作できなくなった水門が今月復旧工事を終えた。水門は高さ15.5m 総延長205m 1984年に完成。今回の震災で20mを超える津波が来たとみられるが、1名の犠牲者だけで済み 住宅もほとんど被害をなかった。



普代水門内陸側

普代水門外洋側

外洋を望む（H24. 3. 14山口撮影）

印象：住宅建設が急務、生活基盤整備優先、防潮堤機能がある5～6階建て堅固な住宅の建築  
 ：住居は3～6階  
 1～2階場所によって3階は、漁具他の保管場所。通路は3階部分。防潮堤の予算で建設可能では。

1. 国、県、市の復興計画はどのように進めているのか視察前の理解が不足していた
  - ・防波堤（L-1,L-2）、嵩上げ、住居可・不可、の根拠と居住者との調整問題が多いと聞いた。
  - ・巨大災害に対する、特別処置法の施行（公共工事に対する個人資産の制限）が必要  
（瓦礫処理、森林の伐採・・・無駄で余分な金を懸けている）
  - ・仮設建物（エルファロ）商店街、等復興の工事用5年間の特別扱い・・・遅い対応）
  - ・平野の少ない入江の町である、瓦礫を含めて横の山を切り崩して埋め立て嵩上げを実施すべきではないか



大川小学校



大川小学校上流部被災農耕地

2. 町議会議員の阿部（奥さん）のお話

- ・野外で近所の人達と60日間、共同生活・・・以前にない絆がうまれた・・・サバイバル経験が必要
- ・質問出来なかった疑問・・・2階は津波から助かっていたようだが、何故使わず皆と屋外生活をしたのか？・・・皆との協調を優先したのか？
- ・ヘソクリ、タンス貯金等を取りに行ったため被災した人が多くいた。
- ・曲がった狭い谷でも津波は遡上することが判った。
- ・3日間便秘する位の人は災害時役に立？・・・如何にトイレが切実な問題かが分かる。



安部さん宅と被災者集団仮設広場



嵩上げ予定と三陸鉄道トンネル

3. 石巻市社会福祉協議会・安部さんよりお話

- ・石巻方式＝市、社協、災害復興支援協議会の任務分担を明確にした・・・3者連携による活動
- ・災害ボラセン設置・・・石巻専修大学と協定し大学内に設置した  
（磯子組3人で大学確認、市センターからバス・タクシーの距離でグラウンド等がテント村になった、水は学校のタンクに自衛隊が補給した なお 水を使わないボラが50%）



旧北上川（日和山より）



女川・市民病院&港を見下ろす

#### 4. 津波の到達高さ等の表示

- 国道には新しく「津波最終到達地点」のポールと表示が新しく設置されていた
- 石巻、女川共明確な表示は少なく、被災者として表示したくないのでは？  
(女川市民病院の1階の柱に津波レベル表示があったが海拔表示が欲しかった)



#### 5. 津波が到達するまでの30分以上の時間何をしてきたのか

- 漁船を所持している者の常識・・・地震津波では沖だして船を避難させる漁師関係者に聞いたが、それは常識である。今会逃げた船が少ないのは14:46分は漁を終え港から離れた家に帰っていた人が多かったのではとのこと・・・沖だしは危険も伴う
- 津波警報が3m、6mであり、防波堤等で住んでる家まで来ないと思った。
- 気象庁から津波警報が、実質の測定連絡が無かった。

(東北大震災後太平洋側にGPS観測ブイが相当数設置された)

- 津波の経験は、チリ沖津波しか実感がなく、それ以上は想像しなかった。
- 地震被害(家具の倒れ等)の整理等で避難呼びかけでようやく避難した。(遅れた人が出た)
- 津波は1、2、3波と有り1波より大きい事があり家に物を取りに帰り2波で亡くなる人も出た。

#### 6. 東北大震災から2年、被災者からの反省と教訓が聞こえない

- 「津波てんでんこ」を含み過去の実績、被災文書、碑、民話、言伝を実生活から抜けている。
- 津波警報の精度のUPを「狼少年」となっている。チリ沖津波程度しか実感が無い。
- 「津波てんでんこ」を含み過去の実績、被災文書、碑、民話、言伝を生かしていない。
- 防災マップ、避難所が、被災地域になってしまっていたことに対する行政の責任はどうか？
- 復興計画が遅れている原因は行政、住民、支援団体・・・何処に問題が？
- ガレキ処理を各県に輸送して処理は、時間と金の無駄遣いでは？

(現地での瓦礫を活かす「いのちを守る森の防潮堤」計画がある・・・宮脇昭教授)

#### 7. 磯子3人組(片山、山口、玉井)別行動(3/24、牡鹿半島、3/27 気仙沼)

- 牡鹿半島(石巻から20Km、金華山を見る所までの山間部で幾つもの谷間の漁港があり鮎川港は捕鯨で有名等の西海岸を車で見る、東海岸には女川原子力がある)
- 支倉常長の出船の記念像・・・世界を見た知識人が生かされなかったことは残念
- 半島西海岸を山越えて、被災した各漁港を見たが、各港は1mの嵩上げ工事が進行中で1部漁港では牡蠣の水揚げ、ワカメの収穫作業をしていた・・・若手の地元労働者は特筆であるとのこと



嵩上げ後  
作業開始

嵩上げ工事中

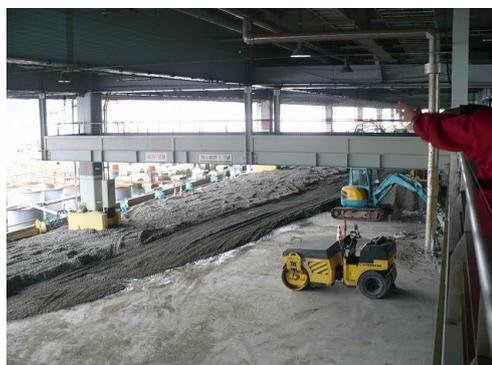


## 気仙沼

- 気仙沼漁協に面会と市場見学・・・約1mの嵩上げ中、サンマ、カツオの水揚げ1/2復活とのこと
- 気仙沼市役所面会と説明を受ける・・・沢山の資料準備で恐縮する（防潮堤計画L-1、L-2が分かる）
- 気仙沼支援のフカヒレスープの製造元（気仙沼ほてい株）見学・衛生管理がしっかり、工場復旧半ばであった。
- 唐桑半島（津波体験館）へ車で30分、S 年会館・・・見学者が少ない・・・津波の体験と反省？



フカヒレスープ製造工場



気仙沼漁協嵩上げ中



気仙沼岸壁の嵩上げ工事（手前は旧）  
（朝7前に工事作業をしていた？）



大鍋屋旅館・・・撤去地域？何故営業可？  
（3人宿泊・・・夜と昼食は仮設商店街で）  
坂本さんと話が出来た）

1.女川にて 3月24日 7:40~8:40 浜野様（前に談義に麻美氏と参加）

夜行バス同行のメンバーと別れ石巻から列車で浦宿駅へ 浜野氏と合流

女川地域医療センターへ町を一望出来る場所にて視察、V字型湾の波高のたかさに恐怖を感じた。

その後総合陸上競技場、総合体育館、（原発助成金にて施工された物）等見学。

陸上競技場は、町営住宅に変わるかもしれませんとのこと。

## 防災塾・だるま 石巻・女川ふれあい紀行

日程：平成25年3月24日（日）～3月26 佐々木 義雄



1.女川にて 3月24日 7:40～8:40 浜野様（前に談義に麻末氏と参加）と待ち合わせ。  
復幸祭会場の女川中学校に向かい マミオパンショップを探す 浜野氏勤務のため別れる。

2.復幸祭にて9:00からマミオパンショップにてボランティア活動。

テーブルに山となっていたパンとストックしていたパンも12:00  
で完売しました。渡辺さん、麻美さんの3人で販売した。

美味しそうといって買ってくれるお客さんがいて楽しく仕事が出来た。

サンマの塩焼きは、9:30と12:00の2回頂いた。大変美味しかったです。



3.エルファロ レストラン 20:15～21:00 復興支援事業者との会話

女川町の高台移転候補地のアクセス道路測量に1月中旬から来ていて3月25日秋田の郷里に  
一週間程帰省後また戻ってきますとのこと、9人のメンバーでエルファロ滞在して活動中。

4.3月25日 コンテナ村商店街向い側で発見（大尾氏より会って来てと一言有り）

うみねこハウス 代表者：八木純子氏（阿部靖弘氏と同級生）

大尾美登里氏の支援団体、3/23～3/24は、横須賀、横浜で販売活動を実施していた。

女川町右手の高浜地区の女性団体 当日は女性8名、男性1名

販売品：布わらじ、携帯ストラップ、リストバンド等（自分たちで制作したもの）

神奈川県支援団体より送られた サンマたい焼き器による販売。

皆さん明るく活動されているのが大変印象的でした。

5. エルファロ レストラン 3月25日 19:30～20:15

静岡県清水市よりお孫さんに被災地を見せたいお婆ちゃんと食事中に会話

清水市朝6:00頃出発の普通列車を乗り継いで12時間程でようやく着きました。

お孫さん（小学校4年生の女の子）が周りの景色をゆっくり見られるので普通列車で来た。

東南海地震が想定されている現在、地震・津波による被災状況がどのようなのか実際の

現場を見せてやりたかった。3月26日は、女川町を見てから大川小学校に行きます。

その後は、岩手県陸前高田市に行きたいのですが連絡が上手くとれるかどうか。



6.3月26日 16:00～17:30 横浜市磯子区 復興支援事業者を訪問

小原さんとお付き合いされている（株）うんめえもん市事業の 渡波地区にて活動を展開

している「渡波オイスターズ」、万石浦の牡蠣産地直送販売、仮設住宅への訪問販売事業等  
のお話をうかがう。地域の人々に大変好評で 復興支援に大きな力となってるようです。

夜行バス（4名）にて石巻～横浜へ帰路

石巻駅で、仙台から新幹線で帰る本隊バスと気仙沼に向かう3人と別れ、夜行バスに乗るために残ったのは、私(小原)と大井町の石井さん、南区の小早川さんと緑区の佐々木さんの4人でした。夜になったら居酒屋で飲食して待てるが、約3時間の空白を「どう過ごそうか」だったのです。

磯子に本部のあるK2グループが、3・11直後に石巻に20名が宿泊できるK2ハウス(ミッション石巻 K2 インターナショナル)を立ち上げて現地支援活動を継続しており、最近では「うんめえもん市」として、横浜市内で大々的に活動しています。

3月の実績は旭区役所&NTT 東日本(6日)、都筑区役所(7日)、K2本部&山下公園&南部市場(9日)、天王町バザール&本郷台駅前イベント(10日)、横浜市役所(11日)、栄区役所(18日)、西区役所(19日)、金沢区役所(25日)、磯子区役所(26日)でした。

3月度の売り上げは目標にしてきた総額400万円を達成したそうです。4月以降は毎日続ける店(国道16号に面し、八幡橋附近にできたアンテナショップ)も開店し、売り上げは拡大方向です。

私は現地拠点が渡波にあり、住所、TELNo、責任者も知っていましたので、1人でも訪問しようと思いましたが、それなら皆で行ってみようという行動を共にしてもらうことになりました。バスで渡波に行き、タクシーで「K2ハウス」を訪れ、タクシーを待たせたままの訪問だったので短い時間でしたが大変よい経験でした。

万石浦に面したK2ハウスは海拔2~3mで津波の被害は極めて少ない所がありました。万石浦の入口にある万石大橋にガレキが引っかかって水の浸入を防いだためだったようで、常に15人前後が滞在し、支援しているカキの養殖のお手伝いも順調に進んでいるそうです。

現地法人として活動しているので ①移動式屋台居酒屋「コロ蛸号」でタコ焼きを中心とした品物を積んで計画的に復興住宅を回る活動 ②水産会社のお手伝い ③老人ホームへの慰問 ④カキを焼いて売るカキ小屋の運営なども行っているそうです。



K2ハウスとコロ蛸号



眼前に広がる万石湾

まみおさんは、石巻の有名人?で観光協会の浅野専務理事もよく知っていましたが、「K2ハウスは全く知らない。」渡波に行くならバスとJRがあるよと教えてもらうのがやっとでした。K2ハウスからの帰りにJRに2駅乗ったのも貴重な経験でした。

「うんめえもん市」の目玉である「カキ養殖発祥の地石巻のカキ」の直送品は絶品でした。石巻におけるK2ハウスでの活動と横浜市内の「うんめえもん市」の息の長い活動は、「だるま」の皆様にも見守り支援していただきたいと思います。

<http://k2-inter.com/>

<http://tanki-fukkoupj.etic.jp/archives/464>

K2グループとは「K2コロンブスアカデミー」の略称です。  
 世の中になじめない若者を親からあずかって訓練し、自立できるようにする若者支援組織です。

1988年に創立し、2003年にK2を入れた名称に変えて現在に至っています。  
 「K2」とは創始者「金森克雄 (Kanamori Katuo)」を意味しています。(まだ60代の若い人です。)

自前の訓練所として、横浜市内に250食堂(250円で丼物定食の食べられる店)5カ所、さらにオーストラリアとニュージーランドでも食堂を運営しています。  
 その他子育て支援ポニョポニョなども開設しています。

石巻の「K2ハウス」と「うんめえもん市」のアンテナショップは、一番新しい訓練の場として立ち上げられ、順調に進んでいるのです。  
 外国と石巻以外の訓練生とコーチは、磯子区中浜町で共同生活(寮)しながら協調、相互理解を身につけています。

小原 茂

活動の一例紹介

**震災復興**

**みちのく復興インターンシップ**

<http://tanki-fukkoupj.etic.jp/>

仕組み改善提案プロジェクト/女川町復興連絡協議会

(被災後に、事業の再建や新規事業にチャレンジする地元の経営者の方のサポートを担っている団体。立ち上げから継続的な運営の部分まで支援している。)

津波により建物が流され、多大な被害が出た女川町。その町で、移動可能な「トレーラーハウス」を使った新たな取組に参画！トレーラーハウス型宿泊村(エルファロ)の立ち上げ期のスタッフとしてよりよい環境づくりに挑戦。

横浜市磯子区にある「K2グループ」の店舗

- ぽによぽによ学童クラブ
- 子育てスポットくすくす
- 「にこまる食堂」

にこまる食堂の前で開催した「うめえもん市」の様子



<http://michinokushigoto.jp/archives/2963>



横浜発 22:15 分発夜行バス「きらきら号」にて出発し、うとうとと少し眠っているうちに夜明けと共に石巻駅に6時30分到着しました。

バスを降りた石巻付近は、被害の跡が見うけられず、少しほっといたしました。後で聞いた話では、駅付近は水没がひどかったそうです。

到着後、「本体と合流するAM11時までに戻る」という3人、女川に先に行く1人と別れて、残りの4人は、11時までの予定を話し合った。

先ず朝食！と言っても朝は早いし、駅には「立ち食いそば・うどん」もないし、空いている店もない。教えて貰って、石巻グランドホテルで「洋食バイキング」を頂きました。（着いたばかりで、一寸贅沢かしら。）腹ごしらえも済んだことで、タクシーの運転手さんにガイドをして貰いながら、石巻の被災地を先行視察に行きました。（本体と合流してから巡る場所を避けて回って貰いました。）  
余りにも被災地の広大さに驚きました。

日本製紙石巻工場も、写真を見ると被害を受け今はすっかり復興し煙突から煙が立ち上り、被災地頑張るぞと言葉を発しているけむりに、私は思われました。  
あの大きな会社のお蔭で、近くの家は被害がなかったそうです。

門脇小学校、焼け焦げた姿を離れた場所で見てきました。後から皆さんと近くで見るだろうと思ったからです。  
被害を受けた車の山積み、どれだけ命を落とした人がいるのだろうか？

悲惨な被害状況を想像すると、胸が詰まる思いがしました。  
海岸線の「車の墓場」と門脇小学校が印象に残りました。

石巻漫画館をゆっくり見学して、歩いて石巻駅に戻りました。

昨年、石巻・女川に視察に来ることが出来なかったことに、どうしても今年被災地を視察したかったので、来て良かったです。

今回の訪問で、お手伝いを何も出来なかった事申し訳なく思っております。幹事さん方の御苦労があったお陰様で、現地の声を多く聞かれたことは勉強になりました。ありがとうございました。

小早川 津江乃 2013-4-5



**暗く寂しく民意の無い町！**

震災より2年が過ぎ全てるにもかかわらず明るさや活気が見られない、暗く重くらしい。震災の話は鮮明に覚えており、より細かく話してくれるが復興の話となると、とたんに口が重くなる。

町民のほとんどの人々が職を失い生活の糧すらなくしている。

仮設商店街を見たが、確かに都会の商店街と比べるには無理ではあるが、どの店を覗いても地元住民がいない。同じように仮設住宅には人の気配がない。以前に新潟地震等触れたことはあるが人間という気持ちの本質は変わらないと思う。東北人の我慢強さのみでは解決できない大きな問題が潜んでいるような気がする。このように感じたのは自分だけだろうか、

地震においては、さほど被害はなさそうであったが、なぜ津波により人的被害が拡大したのか。地震発生から40～50分の余裕があったにもかかわらずだ。津波も20㍍と言われているのが、埋め立てる高さはせいぜい海拔6㍍ぐらいの高さではないか。確かに、今回の津波は千年に一度の、と言われているが抜本的な考えが必要な気もする。もう一つ気になった事がある。

それは箱物と言われる建物だ。女川は原発立地地域あり、豪華な箱物は高台にあり被害を免れている。確かに病院は、海拔16㍍？と聞いたが1階は水浸し、津波にさらわれ亡くなられた方も大勢いると聞いた。

地元の話を書く機会があったが、女川は人が住めるようになるには数十年の年月が必要だと。埋め立て地の軟弱さ一見強そうに見える砂礫の埋め立て、水を吸えば、海・山砂と同じなのでは？専門的なことは解らないが。

また、気が付いた点は、今回の復興は地元女川の為にならない。なぜ地元の業者を最優先にしないのか、日本における巨大建設会社が、別の見方をすれば地元の業者はノウハウを持ち合わせていないという事になる。

また、地元業者JV大手建設会社のような方法を取らなかったのか、地元業者は魅力ある地域密着の特性のある町づくりをできるのではないだろうか。

1日も早い復興を望むと同時に来年も行ってみたいと思う、そしてこの目に焼き付け、無災害都市としての復興を望む。

書くと言うことは、大の苦手です。

ピント狂い、的外れかも？今回参加させていただき得るものが多々ありました。

ありがとうございました。

大井町防災まちづくりの会

石井 栄一

2013-4-2

「まさか」ココまでは津波が来ないだろうという自然の力の恐ろしさを震災から 2 年たったいまでも女川の地に刻まれておりました。

そして気づいた事は「津波てんでんこ」という言葉があるようにどんな場所においても臨機応変に対処できる身の安全を一人一人自覚することが大事だとおもいました。

地震については家屋の耐震化と火事を出さないことも重要と思います。

また住み慣れた家や家族、働いていた職場と仲間が津波と共に消え去り、残された人々の気持ちを思うとき、私たちが今後も出来ることは何なのか・・・・・・・・。

現地に行ってお買い物をするのも一つのお手伝いですが、顔の見える手助けが出来たらと思うのが今の気持ちです。

それから地震の恐ろしさと自分の目で見た被災地の様子や被災者の方々の気持ちを

地域の人たちに話すのも一つの仕事かと思いました。



北原 雪子

今回、石巻・女川視察に参加させていただき、震災より2年が過ぎた今でも、まだ瓦礫の山がある様子を見、津波の恐怖を改めて実感することができました。その大変さの中にも地域の方々の前向きな姿勢に触れ、私たちに何ができるのか、また何をしなければならないのかを考える良い機会となりました。お忙しい中沢山のお気遣いをいただきましてありがとうございました。

新井田春江

沢山の映像で震災の様子を見てきましたが、現地に身を置いてみるといろいろな思いが迫ってきて呆然としてしまいました。

それまで営んできた生活や大切な人の生命を目の前で失い、2年という月日を経てなお荒涼とした故郷に暮らすということがどれほど苛酷なのか。粗末な仮設住宅、破壊された学校、海に続く荒れた土地で子どもを探す父親…まだまだ計り知れない苦しみがあり、復興特需の傍らで、再建できない生活がある…。乗り越えていくのには何が必要なのでしょう。時間、お金、政治、希望…？そして、本当に役に立つ支援は何か、私たちに何ができるかよく考えて長期的に実践していこうと思います。

あの震災以降、保育園でもこれまで以上に防災、減災、発災後の生活に備えた活動をしてきました。そのなかで職員研修の一つとして女川第一中学校の先生の取り組みと大川小学校の被災に関する新聞記事を、全職員が読み、学んだこと感じたことをレポートし、まとめて、全職員で学んだことを共有しました。そこで、改めてなにがあっても子どもたちを守る。一人の子どもも失わないために、自分たちの感性を鋭くし、備えをしっかりとしようとして心を一つにしました。

その経過のなかでだるま塾との出会いがあり、今回の石巻での学びがあったことは、ほんとうにしっかり子どもたちを守りなさいということなのだなぁと思っています。お手配に心から感謝申し上げます。

福島真理子

2013-4-2

雄勝公民館の上に流された  
南三陸観光バス



南三陸観光バス会社

雄勝小学校

雄勝保育園

雄勝中学校



雄勝硯生産協同組  
合と仮設商店街

雄勝湾

南三陸観光バス株式会社 (跡地)  
住所: 雄勝町上雄勝二丁目 22  
仮本社営業所: 石巻市小船越字畑山 65-1

\* 雄勝硯生産協同組合に行く途中に、今回お世話になった「南三陸観光バス会社」があった。大小合わせて20台の内13台が流され、5台はまだ見つからない。雄勝湾に潜るダイバーに聞いても湾内には無いそうである。1台はネットでも見られた、公民館の上に流されていて2012年3月、石巻市により片付けられた。現在は25台で活動中。

用途は、公共のバス・観光バスの他にスクールバスやケアハウスへの往復バスなど市民のためにも利用されている。



南三陸観光バス 旧本

雄勝湾

県道 238 号

道路の反対側に  
バスが流れ着いている。



(震災前) 南三陸観光バス会社



雄勝町雄勝味噌作  
21.4m

赤字 — : 津波浸水高



今回の南三陸観光バスのみなさんも。大変な被害を受けているにもかかわらず、温かい対応をしてくださいました事、本当に感謝いたします。

## 運転手 辻さん

ケアハウスの人たちを送って、降ろしたところに津波が来た。そのまま、みんな車で高台へ逃げた。そこら辺にいた人たちが沢山集まって来ていた。乗っていた車は大丈夫だった。高い所から波の状態とかを見ていて「あ〜、だめだあ！」と思ったが、実際には何が起きているのかすぐには解らなかった。幸いなことに近くに介護施設があり、そこに避難した。入所者や避難者が沢山いて、一晚そこにいたが怖かった。

会社や家族には、まったく連絡は取れなくて心配した。本社にいた人たちは別の高い場所に避難されて無事だった。

今、社員と家族は石巻近辺の仮設住宅で生活している。

集団移転は、育ったところや生活の場などへの愛着や思いがあり難しい。

24日に行った大川小学校の子供たちでも同じです。

特に高齢者は、今まで住んでいた土地や地域を離れたがらないでいる。

阪神淡路大震災や中越地震の時は、申し訳ないが他人事だった。

自分たちに出来ること、しなければいけないことを考える必要性を強く感じた。

物見遊山ではなく、被災地とつながり、支援できることはないか、また地域のためにどう役立てられるかを、まじめに考えている人たちも沢山いる。自分たちも見習いたい。

是非また来てください。

南三陸観光バス（株）

運転手 辻さんの話

\*雄勝町には警察・消防署・小中学校・保育園・総合支所他があり、ほとんどが流された地域です。水産業の盛んな町で、水産加工場や水産会社等、勿論バス会社もすべ流された。瓦礫が随分片付いてはいるが何もない状態である。

湾から少し入った山際の雄勝総合支所の駐車場に建てられた

小さな仮設商店街・雄勝硯生産協同組合などがある。

雄勝硯の産地としても有名、伝統的工芸品も多い。

また、雄勝スレートは東京駅の屋根にも使われている。



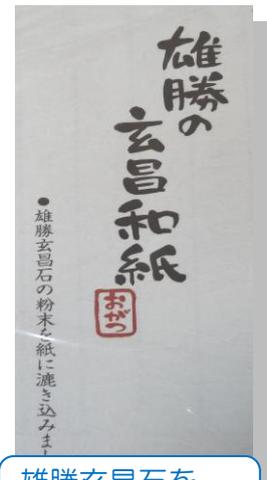
雄勝仮設商店街



東京駅



600年の伝統を誇る雄勝硯



雄勝玄昌石を  
漉き込んだ和紙

こにも津波のつめ跡がくっきり残っていた。肩寄せ合って、細々と生活が始まりつつあるようだが、市街地から離れているために復興は進んでいない。カキ養殖が盛んな土地でもある。本当の生活は、まだまだ先の見えないトンネルの中の事のように感じられます。

2013-4-7 田中喜世美

機会を多く持ち交流を深めようという目的で実施した。

案内役を復興支援のボランティアを続けている「まみおの会」竹内麻未さんをお願いしたことで復興に向けて前向きに頑張っているキーパーソンの貴重なお話の数々をお聞きすることができた。

『被災地の今と声を地域に伝えよう』という視点で今回の体験を、これからの減災への活動にどのように役立てていけばよいかをポイントにしてレポートする。

\*まず初日に「女川復興祭」に参加した。高台にある女川第一中学校で昨年に引き続き盛大に開催されていたが、町民の気持ちを前向きにし、支援に来た人とも交流できる被災地でのイベント開催の大切さを強く感じた。

会場近くに建設された3階建仮設住宅を見ることができたが、仮設でもクオリティーの高い住宅を建設することが可能である事がわかった。



\*雄勝に行くマイクロバスの中で、石巻を中心に活躍するNPO法人 DoTank みやぎの遠藤学さんやまみお会の山根康宏さんの活動を聞いた。

石巻市の観光再生のため石巻専修大学と市女商高の生徒と共に「石巻街なか MAP」や今を生きる「石巻人」を発行。NPOとボランティア活動の必要性、経済的に自立させる支援こそ真の復興につながるという指摘に納得。遠藤さんたちのような、若者たちのネットワーク構築が大切だと感じた。

\*雄勝での硯生産販売協働組合：千葉隆志事務局長のお話を仮設商店街でお聞きした。雄勝も津波の被害が大きく商工会員も激減したが何とか「おがつ店こや商店街」をオープンさせたとのこと。ボランティアの協力もありがれきの中から硯や原料を回収でき採石場も奇跡的に生き残った。室町時代からの伝統を守れるよう残っている材料で生産を再開したが仕事場までが遠くて時間がかかってしまう。被害を受け雄勝硯伝統産業会館新館も痛々しい姿を見せていたが、ブランドがあることに大きな復興へ力になると思うので後継者などを育成して伝統の産業を守ってほしいと思う。

\* 東日本大震災が起きた時は市立湊小学校に勤務されていて、現在は大川小学校の校長先生でいらっしゃる千葉照彦先生にお会いできた。

間借りしている飯野川小学校での大川小生徒の元気に頑張っている様子もお話しいただいた。

\* 宿泊したトレーラーハウス近くにお住まいの、**阿部薫・町会議員ご夫妻**のお話を2階建自宅前でお聞きした。3.11の時に津波が遡上した川は水があまり流れていなかったが1階まで水につかり阿部さんや近所の方々は避難所に行かず自宅後ろの広場で青空や星空を見ながら避難生活を続けたとのこと。避難所で何もしないで体調を崩し、心の不安を感じた方もいらしたと思うが、皆で知恵を出し合い協力して自然の中でサバイバル生活を2カ月もするとは、何とたくましいのだろう。避難生活を有意義に導く1つのあり方を学んだ。

\* 女川町を一望できる地域医療センターは震災時に高さ14mある病院の1階1.9mまで津波が襲った。駐車場や1階にいた2階へあがれなかった障害者の方等が犠牲になったとのこと。その入口に女川第2小学校校庭で開局した女川災害FMが、放送を継続している。**女川災害FM松木達徳代表**にお話を伺うことができた。災害FMは本来2ヶ月間で必要性を考え申請して放送を延長していくがコミュニティ放送へ移行するには経済的にクリアしなければ難しい面がある。女川災害FMはメディアに良く取り上げられ3月26日「ラジオ」という女川災害FMをモデルにしたドラマも放送された。コミュニティ放送が通常からある町はスムーズに災害情報を流せるしパーソナリティーが放送を通して住民を励ますこともできる。情報を発信できるメディアの必要性は大きい。

\* 会社の事務所と工場があった跡地にコンテナ商店街を建設した**阿部養建設会社・社長の阿部靖弘さん**には2日にわたりお話をお聞きした。浸水域と民有地なので仮設住宅建設は無理ということで、コンテナハウスを建設した。

女川復興連絡協議会が震災後数カ月で結成され、「きぼうの商店街」や木造仮設店舗を建設することができたとのこと。2日目は海に近い更地になったところに大きな建物が横倒しになって七十七銀行（屋上に避難して12名が犠牲）の跡地で大手ゼネコンと地元建設業界の関係の課題などを語ってもらった。

柔軟なアイデアで復興を進める阿部さんのような行動力のある人材が貴重だ。

\* 川を遡上した津波の被害が大きかった門脇地区。1階にあったタンクや重機が水につかってしまった創業100年を超える味噌や醤油製造の**山形屋商店**。

取締役の山形政大さんは内陸の工場にレシピを渡して製造を再開していると語った。一度は再建をあきらめかけたが、地元の老舗の味を愛してくれるお客様や、泥出し等を手伝ってくれたボランティアの方々の励ましで再出発を決意したとのこと。

人が頑張れるのはやはり人からの励ましが一番だと感じた。

\*平塚市でも講演していただいた石巻社会福祉協議会 阿部由之さんのお話をお聞きすると、地震の発生予測が高いことなど通常時から、行政や今回災害ボラセンの拠点となった石巻専修大学等と密接な連携が取れていたことが、しっかりした活動に結び付いたことがわかった。石巻市は合併したこともあり亡くなった方や行方不明の方が4千人近くと被害が大きかった。しかし、社協の職員の半数以上が被災地支援の経験がありプロ意識の高いことがうかがえた。まず家族の安否確認や救助のアドバイスを続け、足元をしっかりと確認して効果的な活動を精力的に継続した災害ボラセンのあり方は学ぶべきことが多い。「石巻 NPO 連絡協議会会議」を継続して行い仮設住宅訪問にも力を入れている。

\*創刊100年目の節目を迎えた「石巻日日新聞」は被災の跡が街の中になくなって危機感が薄れないように中心街に、博物館とニュースをかけあわせた名称の『石巻ニューズ』を開館した。武内宏之館長は、津波で輪転機が水没し夕刊を印刷することができなかったので、被災直後から手書きの「壁新聞」を貼り続けた経緯を語った。復興が進んでも人が少なくなっている状況で役立つ情報を提供し、被災当時のことも語り続けていきたいという静かな情熱を感じた。

\*石巻駅前にある石巻観光協会で名物石巻焼きそばをいただいた後、石巻観光協会専務理事 浅野清一氏のお話を伺った。駅周辺も浸水し、観光協会の商品も2階に上げ専務理事も家に帰れなかったとのこと。数日間水が引かなかったということだが、沿岸地域と違って被害が少なく機能している。全国からたくさんの人々が訪れてほしい。

まとめ：

今回のツアーでは被災した困難な状況の中でも、工夫をしながら希望を持って街の復興に力を尽くしている方々のお話をお聞きし、通常時からの対策の大切さと、いざという時の英知を活かした組織づくりや連携を活かすことで、課題を何とかクリアしていく姿勢を学んだ。

山田 美智子



## 「急がせない復興」の大切さ＝被災2年の女川・雄勝で感じたこと

中川 和之

政治家やマスメディアがこそって伝える「復興にスピード感がない」「復興が遅い」という言い方がある。それは、誰を責めることになるのか、分かって伝えているのだろうか。女川の町で、あらためてその罪深さを感じた。

きつい言い方だが、「一日も早く、元の生活を取り戻したい」という願いは絶対に叶わない。それが災害なのだ。復興区画整理事業終了が最も早くても7年かかった阪神大震災や新潟県中越地震の事例を見るまでもなく、多くの住民が関わる面的な復興には、時間が必要なのだ。あたかも、政府や自治体のやり方が根本的に間違っているから進まない、と言いたいのだろうか、現実には地権者の合意形成に時間が必要になる。

ちょっと考えてみたら分かるはずだ。もし、自分がその土地に住んでいて、自分だけが亡くなったら、家族の誰かが犠牲になったら、自分と家族みんなが犠牲になったら、その後、どうなるだろう。さらに、遺体すら見つけてもらえなかったら、残された親族らはどう思うだろう。そんな状況で、さっさと「これからは復興だ！」と言えるだろうか。そんな人の気持ちは放っておいて、「復興のスピード」は加速されなければならないのだろうか。

もちろん、制度の難しさや不備はあるだろう。まちづくりを支援する人たちの中には、被災地の住民の気持ちにうまくより添えないために、うまく進まないところもあるだろう。

神戸の時は、港湾機能がすぐに回復できなかったのも、しかたなく上海や釜山に代替された結果、神戸港に頼らなくてもできることが証明されてしまい、神戸港は国際的ハブ港としての地位を失った。激しい国際競争の中で、急がねばならないこともあるだろう。

だが、普通に暮らす人たちにとって、そもそも復興には時間が必要なのだ。女川のまちにあった「造成計画高さ」の表示は、あの高さまで地盤を作って、さらにその上に町を作り直すという（合意形成に基づく）決意表明だ。ようやく、そこまで進んだのだが、具体的な工事はこれからが本番になる。実際の「復興」はまだまだだが、前に進み始めている「復興感」は確実にあった。

一方で、雄勝の旧役場は、まだ直後のままのような状態だった。それが、意図的であるならば、よい。しかし、そうでないなら、時間が2011年3月11日から止まったまま

の状態の「復興感」のなさが、雄勝の厳しさを表していた。ログハウスのような小さな小屋を、ワークショップのように作っている若者がいたのが救いだっただ。

そもそも、復興は急いでは行けないものなのだ。中越地震の被災地の方が、自分たちの被災から3年後の新潟県中越沖地震の被災地の住民に対して、「あわてないでください」という手紙を送った。災害復興学会の設立大会で披露されたそのメッセージは、少なくとも復興に関わる専門家たちの共通認識になっているはずなのだが、政治家とマスメディアの大合唱の中で、被災地の人たちがさらに傷つくことになっているのではないだろうか。

一方で、被災から1週間もたてば、いや3日もたてば、被災生活が何らかの日常になる。そこから、「自分の生活」をどう再構築するかは、それぞれの地域や人の力にかかっている。だが、膨大な喪失感の中で、その人たちが、火事場の馬鹿力をそんなに長くは出し続けられない。必ず、息切れはする。その時に、その気持ちが分かっている人が、そばにいてくれること。「あわてないでください」と言える経験までは持っていなくても良い。「被災という辛さ、厳しさを、少しでも分かち合えれば」、「自分ができる範囲で少しでも引き受けられれば」と思ってくれる人が、いるだけでありがたく感じるだろう。

女川のイベントは、そのような気持ちの分かち合いの場の一つだろう。被災後、多くのイベントが行われているはずだ。それが、ある意味で被災地の日常になっている。何らかの新しいまちが、具体的に立ち上がってきたとしても、女川に縁を得た「防災塾だるま」としては、あのまちに通い続けるという決意を新たにし、また、そこから多くのことを学び続け、伝え続けるというもう一つの決意も新たにしておこう。

(大川小のことまではうまく書けませんでした)

\*中川和之



まとめになります。被災地・関係者のみなさまのご協力に心より、お礼申し上げます。

大変厳しい、復興途中にありながらも、私たちの願いに快くお話の機会を作って頂きましたことありがとうございます。

3.11 の後、被災した現地で活動をされている「まみおの会」（代表：竹内麻未さん）のみなさまのご尽力が大きいものと感謝しております。

今回の特色は、さまざまな人たちとのネットワークの力によって、普通の見学ではお会いできない多彩な人たち、食品製造や販売の関係・町会議員・学校関係・報道関係・テナ商店街や住宅等にご尽力されている建築関係の方々他、地域で活動されている多種多様な人たちにお逢いできお話が聞けました。

また、「支援する立場」の社会福祉協議会・ボランティアの人たちの活動は、今回参加した「防災塾・だるま」の会員にも、参考になったと思います。

そして、今回のネットワークの特徴を、物語る一例を紹介したいと思います。スケジュールが、かなりまとまった段階で、突然、芦屋市の今石課長より、被災地での貴重なお話の機会を調整して頂きました。芦屋市よりのお手配に、正直びっくりしました。

実は今年 1 月 17 日の、「神戸市でのつどい」（慰霊祭）に参加するために、前日荏本先生とだるまのメンバーが、芦屋市役所を訪れました。芦屋市の取組や活動等をお聞きし、その後、市内を歩き備蓄庫や、災害時にも使えるトイレ等を案内して頂きました。

このような交流により生れた絆が、今回の企画をより充実された要因と思っています。

被災地は、まだまだ大変厳しい状況にありました。そんな中、一生懸命に努力するみなさまに心を動かされる、さまざまな場面に出会いました。

今回のつながりを大切に、次の「一歩」につながればと思っています。

みなさまのご協力に感謝するとともに、幹事の田中（喜）さん・山田屋（美）さんの献身的な努力があって、今回の企画が成功したものと思います。ありがとうございました。

副塾長 池田邦昭 記

# 資料編

3.11被災地を巡るⅡ 2013

**被災地の今と声を地域に伝えよう**  
 ～明日の震災を生き抜く為に～

お世話になったみなさま方

第95回防災まちづくり談義の会  
 「防災塾・だるま」2013年4月26日(金)

**まみおの会** **女川町商店街復興祭2013**  
 ーきぼうのかわをわたろうー  
 2013年3月24日(日)  
 9:00 17:00  
 女川町大川

代表: 竹内 麻未さん(今回のツアーコンダクター)  
 本部: 渡邊 信子さん

サンマ焼き  
 焼きさんまに頼れそうな  
 時事通信社  
 山形支局長  
 中川 和之氏

パン屋さんのブース

**NPO法人DoTankみやぎ 遠藤 学氏**

まみおの会 石巻支部 山根 康宏氏

災害復興とまちづくり  
 ー宮城県石巻市での被災と  
 家族みな見たことー

石巻

写真: 遠藤学氏(左)と山根康宏氏(右)が車内から話している様子

**雄勝硯生産販売協同組合**

事務局長 千葉 隆志氏

雄勝硯と  
 その他の製品

写真: 雄勝硯の生産現場と各種製品

**石巻市立大川小学校**

校長 千葉照彦氏

**伝えたい!!本気の心・みんなの思い!!**

写真: 大川小学校の建物と校長千葉照彦氏

\*学習発表会スローガンより\*

**女川町議会議員**

阿部 薫氏  
 哲子奥さま

御礼状を頂きました

封行動  
 封現場

先般は遠路小町、大変お忙し  
 なのに、お礼状を頂戴し、心  
 づくりに、心づくりに、心づくりに  
 意味がある、お礼状を頂戴し、心  
 づくりに、心づくりに、心づくりに  
 封現場、お礼状を頂戴し、心  
 づくりに、心づくりに、心づくりに  
 2013 3.28  
 女川町女川町新田270  
 阿部 薫 封子  
 0225-521-5524

**女川さいがいFM**

代表 松木 達徳氏

震災から支援・復興に向けて  
 立ち上がる 町・宮城県女川町  
 にてFM79.3MHz&サイマル放  
 ラジオで放送中の臨時災害放  
 送局ですあの津波で、町の大半  
 が失われたなかで、いまでも  
 臨時災害放送を続けている。

写真: FMの放送現場と聴き手

WFSM

**山形屋商店**

取締役 山形 政大氏

美味しいですよ!

写真: 山形屋商店の建物と山形政大氏

## 阿部養建設株式会社

▶ 社長 阿部 靖弘氏



コンテナ村



自宅の空き地に  
に作りました。



## 石巻社会福祉協議会

災害復興支援対策課  
仮設住宅入居者等支援事務所  
課長補佐兼副所長 阿部 由紀氏

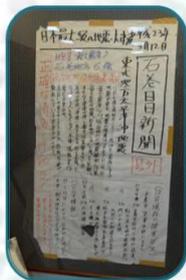


専修大学との連携で！



## 石巻ニューズ(石巻日日新聞)

▶ 館長 武内 宏之氏(常務)



伝えたいあの日・そしてこれから



## 石巻観光協会

▶ 専務理事 浅野 清一氏



石巻駅



## エルファロのみなさん



## 南三陸観光バス株式会社

▶ 運転手 辻さん



雄勝公民館の上に漂着した南三陸観光バス

## エルファロ (スペイン語=灯台) トレーラーハウス宿泊村



## ありがとうございました

今回は、みなさま方に多大なご協力を頂きました。  
参加者一同心より感謝申し上げます。



今回の参加者21名のみなさん

# 被災地の今と声を 地域に伝えよう

～明日の震災を生き抜くために～

調査日 2013年3月24日(日)～26日(火)  
オプション23日・27日

## 主要訪問先

訪問先 37か所 お話の聞いた人20人

石巻 仙台駅バスターミナル 石巻駅 社会福祉協議会 石巻ニューゼ 石巻観光協会 石巻病院横 門脇小学校被災地 大川小学校被災地 日和山 山形屋商店 丸平かつおぶし えくれーる	女川 女川町商店会復興祭 エルフェロ 女川町旧市街地 エルフェロ周辺 旧女川町立病院 女川さいがいFM おちゃっこクラブ さぼうの館商店街 なっちゃん コンテナ村商店街 マリナル女川 雄勝磯生産販売協同組合	追加調査班 (オプション1) 福島県南相馬 (オプション2) 男鹿半島の漁港 (オプション3) 石巻グランドホテル 石巻専修大学 日本製紙石巻工場 石巻漫画館	追加調査班 (オプション4) 気千沼漁業協同組合 気仙沼ほてい寮 気仙沼市役所 第十八共済丸 大鍋屋旅館 唐桑半島ビジターセンター (オプション5) K2ハウスとコロ館号
---	---	--	--

## 東日本大震災における被害等状況

25年3月31日現在

	人口 H22/10	直接死者	関連死者	行方不明者	全壊(床上浸水含む)	半壊(床上浸水含む)
石巻市	160,826	3,262	243	453	22,357	11,021
女川町	10,051	584	22	266	2,924	347
宮城県	2,348,165	9,568	862	1,315	85,260	152,880

## 調査者 荻本先生以下21名



女川 鉄筋建物倒壊現場にて  
後ろは旧女川町立病院

幹事  
田中喜世美  
山田美智子

PP編集  
田中晃



沢山の方々が訪れている



## 「まみおの会」の活動



女川町商店街復興祭  
会員佐々木さんが応援

・当初パンの移動販売をし、たが不避難平の来るところにたがものをほしいところをたがたすことを手伝った。

・若い人が手伝ってくれ、まみおの会と地域との役割分担ができて、市役所の間で立てるようになった。

・関係者でパーベキューも行い、融和を図った。

## お世話になった方々と復興への思い 「まみおの会」



左：案内をしていただいた竹内雅未さん  
右：石巻の語り部 山根さん(石巻市民)  
夕食時に思いを語ってもらいました

## NPO法人DoTankみやぎの遠藤さん

- \* コミュニティビジネスマイスター
- \* 復興の共通イメージを、映画や復興支援マップなどのセットで伝えている。
- \* 工事単価が2倍になり、公共事業が後回しになっているのが心配。
- \* 援助依存体質になっている。自立に向けて支援する社会的仕組みをつくる時期だ。



## 野球場に作った仮設住宅



- \* 3階建ての仮設住宅
- \* 野球場に作ったので、スコアボードが見える

## 地域産業の再興 雄勝硯生産販売協同組合 千葉さん



- \* 民間の屋根瓦を箸置きやお茶請けに
- \* ボランティアの協力で瓦1万枚以上を収集、加工
- \* 東京駅の屋根に雄勝産スレート
- \* 伊勢神宮に700枚納入
- \* 雄勝の硯は有名

## 石巻市立 大川小学校跡



## 大川小学校2



- \* 避難所に指定されていた
- \* 74名（全生徒108名）死亡
- \* 現在裁判中で、現実を検証中。
- \* 機転を利かせて空白の1時間弱で、逃がせられなかったのか。

## 女川地区



- ・ 体育館が2つある裕福な町である。原子力があるためか・・・
- ・ 女川市街から赤く塗られた長さ2kmの奥地まで水が遡上した。

## 女川町の被害



- \* 女川町の海岸部、左下に駅があり、周辺が全部流され、更地になっている
- \* (次図参照)

## 宿泊地「エルファロ」 (トレーラーハウス)



- \* 地域の旅館4社が出資して立ち上げ
- \* 村営住宅のあった土地を利用（ここも津波が来た場所）
- \* 朝4時起き、夜9時まで勤務
- \* 冷暖房、バス、トイレ付

## 今でも悲しみが続く(女川)



宿泊地 エルファロ付近で  
海岸から奥2Kmほど

## 熊野神社から見た女川町・女川湾



旧女川町立病院



横倒しのビル

## 旧町立病院



- \* 高さ17.5m、さらに1階1.95m水没
- \* 高台の駐車場に避難した人たちが犠牲に
- \* この下に女川市街地が広がっていた。

## トンネルと高上げ



- \* JR女川駅から浦宿に抜けるトンネル（左奥）と赤い嵩上げの高さの表示

## 女川災害エフエム 松木達徳代表



- ・病院の前の仮設事務所 1日1時間半
- ・非常時の放送で、地域のために情報を発信
- ・採算は合わない

## 地域で避難生活



町隣の阿部薫様、奥様、近所の方から被災後の状況と自宅脇の空き地で避難生活を聞きました。

## 海岸からの津波の遡上地点



- \* 女川の奥2km程度まで、津波が右岸・左岸と直撃、護岸を壊しながら水が遡上した。
- \* 左が津波が遡上した川、右奥が最終到達地点

## 空き地で避難生活

- \* 家の裏の空き地に30~35人位で生活した。
- \* 今いる人の名簿をつくり、避難所に届けた。近所の方以外もいたが、絆が生まれた。
- \* トイレは各々が家や自然の中で排泄した。3日間は飲まず食わずでも体力が有った。
- \* 津波で流されてきた冷凍の魚や、冷蔵庫の中のものを持ち集め、鉄板で焼いたりおしゃべりにして1日に2回食べた。水は山からの湧水があった。
- \* 順番に分担を決めた。男は焚火、料理の得意な人は料理と分担が決まっていた。
- \* 避難所では、沢山の人がおり、食料も1日にパン半分・おにぎり1個で少ない。
- \* 4日目には歩けなくなった。下痢や嘔吐がはやった。尿を漏らす人もいた。

## 「うみねこハウス」(女川)

(コンテナ村の道路挟んだ向かい側)



- \* 主要道路沿、草履、たこ焼き、たい焼き等販売
- \* かながわ女性防災事務局長大尾さんのボランティア場所
- \* うみねこハウス代表：八木さん
- \* たい焼き機：さま災害VC濱田氏グループの寄贈
- \* 東日本災害Vステーションの補助支援

## 阿部養建設社長の阿部靖弘さん



女川港から津波が現コンテナ村の前を通り、山を越え反対側まで渦巻いて流れた様子が露られた。

## コンテナ村商店街（女川）



\* 最初に被災事業者で立ち上げた商店街 9店舗  
イタリヤ材をボランティアがくみだてた。

## 地域商店の復活 きぼうの鐘商店街（女川町）



**きぼうの鐘の由来**  
津波で流されて、1つだけ雲の出る状態で見つかった。女川駅で列車の到着を知らせるためにならされていた。  
(4つのうちの1つ)

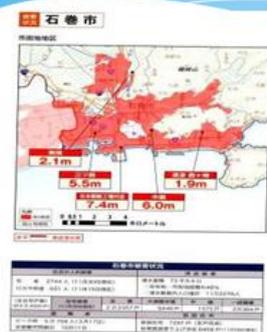
- \* 50店舗
- \* 郵便局や職業紹介所在り

## なっちゃん （女川 きぼうの鐘商店街）



\* 手作りの草鞋をつくり売っている。  
\* 商品数は増加し、東急ハンズの草履、荻窪の喫茶店でマスクを売っている。  
\* わかめは東京の学校給食に納入している。

## 石巻市



## ・山形屋さん（醤油等）

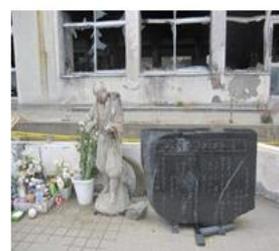


・内地の工場に発注したりして細々と販売を続けている。手前の母屋と工場は撤去済み  
・がれきが撤去され、フォークが入れたのは3か月後。設備は錆びた。

## 石巻市 門脇小学校跡



## 門脇小学校2



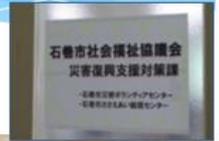
\* 津波によって運ばれた車が多数ぶつかり炎上した小学校  
\* 子どもたちは先生方の機転で、いち早く横の墓地側から裏山に逃げ無事  
\* 2m×20cmの教団を2つ並べた

## まる平かつおぶし店



- 1～2階は津波被災したが、3階に残った軽節削り機を使い再建した。
- 山形屋と製品開発、展示会を共同実施

## 石巻市社会福祉協議会 阿部康弘様



- \* 石巻専修大学と石巻市が災害ボランティアを3月15日に設置  
調印は23.3.31
- \* 平塚市と協定を結んでいる
- \* 新潟中越を含め職員を被災地域に派遣、職員の半分以上が経験
- \* ここで活動したボランティアは50%



## 商店街の水没(石巻)



旧北上川横の中央二丁目商店街が水没した

## 石巻ニューゼ(石巻日日新聞) 武内宏之常務

- \* 手書き新聞は18日まで
- \* 各避難所に掲示
- \* 水に浸かった印刷機をきれいに印刷



## 石巻観光協会 浅野清一専務理事



- \* 海から2Kmの石巻駅前も水没
- \* 石巻駅近くの市役所の1階(スーパー)が水没  
犠牲者はなかったが、3日間水が引かなかった
- \* 2年も会っていない人がいる。

## 南三陸観光バス(株)運転手 辻さん



- \* 雄勝町の本社営業所は津波で流された。
- \* ケアハウスの人達を送り、下ろしたところに津波、高台に逃げた。
- \* 雄勝町で20台のうち13台が流され、5台が見つからない
- \* 雄勝公民館の上のバスは撤去されていた。

## いろいろの町おこし(上記外)

- \* マリンバル女川(女川) 鮮魚を扱う店舗で、災害後わずか半年で営業を再開  
蒸し牡蠣は美味
- \* ニューごのり(女川) 2日目夕食  
巨大なアナゴ1本の天ぷら
- \* 岡清(女川) お寿司をテイクアウト
- \* オチャコクラブ(女川) コーヒーサロン
- \* エクレール(石巻) お菓子など
- \* 中国飯店萬里(石巻) 石巻観光協会で石巻焼きそばを昼食に



## オプション1 K2ハウスとコロ蛸号



- \* 万石浦に面したK2ハウス
- \* 磯子に本部
- \* 常に15人前後が滞り、牡蠣の養殖のお手伝い
- 主な活動(現地法人)  
移動式屋台居酒屋  
水産会社のお手伝い  
老人ホームの慰問  
カキ小屋の運営

## ( オ プ シ ョ ン ) 「福島県南相馬を巡って」1



南相馬市域 原発20~30km圏内  
津波の被害のままの集落や車両が残されていた。  
その付近は全く人影がなかった  
車両は普通に走っているし、中心街は多くの店舗が営業していた。

## 「福島県南相馬を巡って」2



生活感を感じない。窓が閉じ、カーテンが閉まった家が大部分。洗濯物がない。  
コンビニ・ガソリンスタンドが目立つが人通りがない。畑が耕作されていない。これが普通か

## オフション2「牡鹿半島の漁港を調査」



若い人がわかめを処理。カキヤホタテは2年間のプランクで販路がない。漁業特区で大手経営の会社に1mのかさ上げ工事が進行中

## 気仙沼漁港の再建



気仙沼漁港かさ上げ工事  
サンマ・カツオの水揚げ1/2復活

## 気仙沼2



ふかひれスープ製造工場（左）夜と昼は仮設商店街で坂本さんと交流  
大鍋屋旅館（右）撤去区域？なぜ営業中3人で一泊

## 唐桑半島ビジターセンター



津波シアター、津波発生模型、津波の歴史等津波資料館

## 感 想 3 つ

- \* 1. 発災後2年、石巻・女川の前市街地では、かさ上げや被災駅の再構築が進まれている。
- \* ・(女川)「赤」の高上げの高さ表示、「青」は、山を削る高さの限度域(高上げのために必要な土を山を削って使用)表示
- \* 2. 強い揺れと長さから、逃げろとの声掛けで避難した。津波は何回も満ち引きがあった。
- \* 助けての声にも助けられなかった。家にものを取りに行き死んだ人も多い。年寄りと一緒に逃げようとして遅れた人も多い。
- \* 3. 地元企業は、企業同士でライバルであったが、製品開発、共同販売など、助け合いのコラボができた。(6次産業)
- \* なお、機械をなくした製造業には再建が厳しい。

## 被災地の今と声を地域に伝えよう

- \* 出席者の感想
- \* 地域に伝える事

～明日の震災を生き抜くために～

2013年6月 「防災塾・だるま」

質問：荏本先生（3月11日）⇔ 回答：阿部養建設 阿部靖弘社長（3月15日）

私はコンテナ商店街という実態そのものを見ていない、経験していないので、知識としては、まだ持ち合わせていないのが現状で、何をご質問してよういか少し戸惑っているところですが、以下に少し幅を広げて、震災、津波、被災、避難、復旧、復興という時間の流れを意識しながら、幾つかの質問したいことを記載させていただきます。まだまだ復旧・復興の現在進行中という段階で、難しい状況もあろうかと思いますが、その中で大きな課題・問題点などありましたら、お聞きできればと思います。宜しくお願い致します。荏本（神奈川大学）

荏本教授にお願いして出して頂いた事前の質問要綱

質問 1~4 ※ は教授からの質問 ★は阿部養建設 阿部靖弘社長よりのご回答

## 1. 震災時

※ 地震の揺れの強さはどのくらいで、どのように感じましたか？

★ 自分は工事中の木造 2 階建て集合住宅の屋根の上にいました。建物が撓ってゆっくりと振れ幅の大きな揺れが長時間続き、恐怖は感じませんでした。が屋根の棟の部分で腰を下ろしてました。揺れの大きさというより時間の長さ。にこれまでにない地震だと感じました。屋根の上から道路脇の斜面から数十センチの岩が数個転がり落ちるのが見えました。因みに女川は原子力発電所があることから地盤が良い地域で震災でもそうでしたが過去の地震でも、仙台や石巻に比べ震度は 1 ランク低いです。

※ 建築学会等の研究者では、建物の揺れによる被害は左程小さくなく、建物被害は主に津波によるものだという意見が多くありますが、

★ 建物の揺れによる被害は少なかったのでしょうか？

津波で流失しなかった建物でも地震だけで被害を受けた建物は殆ど無いと思います。歪んでしまった建物はあったかもしれませんが倒壊したものはありませんでした。被災して解体したり曳家で基礎のレベルを修正した建物は殆ど地盤が不同沈下したものの。

※ 地盤の液状化現象などによる建物被害はあったのでしょうか？ 海岸の埋め立てした

★ ところに建っていたマリンパルや商工会にいた人達の証言によると、地震の時、駐車場で液状化により水が噴き出してきたとか。道路が沈下して段差ができ建物内の車を出すのが大変だったそうです。

## 2. 津波到達時・被災時

※ 津波による被害の映像などを見ますと、木造建物などが意図も簡単に浮上して流失するような光景がみられま w) すが、建物と基礎との結合（例えばアンカーボルトによる定着）は、あまり効果が無かったのでしょうか？

★ 基礎に土台が残っていてホゾから抜けているのと、土台がアンカーボルトで引き裂かれているのがありました。近年採りいれられたホールダウン金物の使われている建物は確認してません。

※ 津波による建物被害などを見ると、津波の浸水深（水圧の大きさ）や流速による水圧などは大きく作用しているように思いますが、実感としてどのような印象をお持ちですか？

★ リアス式海岸特有の地形ゆえに水位が高く、流速が速かったため木造の建物が殆ど流失したと思います。また、町内市街地は平地に木造住宅が密集していたため自分が目撃したのは海水ではなく津波に押されてきた瓦礫でした。

水圧というよりその瓦礫に巻き込まれながら押しつぶされた可能性もあります。

自宅近所の高台のお宅でその様子を見ていた人の話では、洗濯機の様うずを巻いていてその中に住宅が巻き込まれグシャッというように押しつぶされていたそうです。

引き波も台風の時の濁流のような流速だったので水が引いた後に瓦礫も残っていない土地も有りました。

## 3. 被災時・避難時

※ 津波避難などに関して、行政からの避難の情報などは十分に伝達されておりましたか？

★ 防災無線が地震の直後から放送されていましたが暫くして聞こえなくなりました。役場の状況は以下の記事の最後に。

自分は最後の逃げろという男性の声は聞いた覚えがありません。

[http://www.kahoku.co.jp/spe/spe\\_sys1071/20110826\\_01.htm](http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1071/20110826_01.htm) (資料 1)

★ 津波が来るまでラジオを聞いていましたが女川の情報は特になく宮城や岩手の沿岸に津波が来ているといった情報だけでした。

津波から逃げる際、ラジオを持っていくのを忘れたためその後、カーラジオや携帯のワンセグで情報を得ようといいましたが女川の情報は全くなかったと思います。

※ 住民同士の避難情報は共有化されておりましたでしょうか？

★ 全くなかったと言えると思います。

自分の母親は運良く助かりましたが、近所の方の多くが片付けをしていたのか自宅の中にいて亡くなられています。

※ 行政の対応は、事前・発災時・事後などで、何か有益な行動・情報などがありましたでしょうか？

★ 特になかったです。待っていても何の届かないと思いました。

女川町役場に対しては震災前から常に誠意のない対応に憤っていました。

きつい言い方になりますが、平時に出来ないのに、ましてや有事に誠意のある対応が出来るわけがないと再確認しました。予想もできないような非常時であったのでとにかく自分で考えて行動しなければと思いました。

※ 古来、幾度となく地震や津波災害を経験している地域であり、過去の教訓も数多くの残されているものと思いますが、それらの先人の教訓や言い伝えなどは、有効に生かされましたか？

★ 過去の津波の規模と同等と判断したため亡くなってしまった人が多かったかと思えます。

比較的高台にいて被災した人達は昭和30年代のチリ地震津波程度の高さ約5m規模だろうと判断したのだと思います。

また海岸周辺の人達は震災前年のチリ地震による50cm程度の津波の経験で甘く見ていたのだと思います。学校や地区で火災や地震に対する避難訓練はありましたが、津波に対する防災訓練はなかったです

※ 何か特別な教訓、有用な言葉や言い伝えが残されていたら、ご披露頂ければと思います。

★ とにかく高いところへ逃げるしかないですね。

#### 4. 復旧時・復興時

※ コンテナについては、どこから入手されたのですか？

★ コンテナ村商店街は自社の事務所工場跡地（昨年未で町に売却）でありまして震災直後は仮設住宅用地が不足しており 仮設住宅用地として使えないか知合いの職員に個人的に打診したのですが浸水域と民有地ということで無理ということでした。

その後、5月頃から商工会の有志で商売の再開をするための打合せをする中で土地を提供してもいいと申し出ました。

当時は、自社の営業再開に全く見通しが立たず、再建についても工場や資材置き場は設けず事務所のみで 営業しようと考えていました。

そして仮設の店舗を中小企業基盤整備機構の支援制度で建ててもらおうとしたところ、ここでも浸水域と民有地ということがネックとなり計画がストップしてしまいました。

★ きぼうのかね商店街（女川高校グラウンド仮設商店街）の例

<http://www.smrj.go.jp/kikou/earthquake2011/kasetsu/miyagi/063613.html>

そんな中、メンバーの一人が町内の指ヶ浜にコンテナを活用した仮設住宅が設置されたことを知り、発起人である菅原出氏に支援を依頼して実現しました。

難民を助ける会のサイトに詳しい経緯が掲載されています。

[http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0513\\_647.html](http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0513_647.html)

[http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0608\\_673.html](http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0608_673.html)

[http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0615\\_683.html](http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0615_683.html)

[http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0711\\_700.html](http://www.aarjapan.gr.jp/activity/report/2011/0711_700.html)

※ コンテナを利用する際に、窓やドアや冷暖房・調理施設など、必要な改良を行うことが求められると思いますが、どのように対応されたのでしょうか？

★ コンテナの規格以外の改造は全て各店舗にて使いやすいように工事しました。

共用部分やエアコンなど共通で使用するものは共同で対応しています。

2011年の冬からコンテナの前に木造で店舗スペースを増築しました。

これは商工会を通して材料の購入費を補助してもらい。

石巻を拠点に活動しているピースポートさんにボランティアで工事をして頂きました。

ピースポートさんによる増築。

<http://pbv.or.jp/blog/?p=5335>

<http://pbv.or.jp/blog-ishinomaki/?p=5619>

<http://pbv.or.jp/blog/?p=6156>

※ コンテナ商店街の実質的な営業などについては、行政側との話し合い（施設・期間・場所・営業形態など）がなされたのでしょうか？

★ 商工会と簡単な協議がありました。

オープン時に土地の無償貸与契約を商工会と結んで 役場にはその間、固定資産税を免除としてもらいましたが、浸水域は実質非課税となったのでその必要はありませんでした。

※ 余震などが続く中、コンテナの耐災害性（耐震性、強度や防火性、居住性）などについて行政の指定はあったのでしょうか？

★ 消防署から火災報知機を設置する規模ではと指導がありましたが仮設店舗であるということで、消防署の方で消火器の設置や負担の少ない形で対処できるよう配慮頂きました。

コンテナ村商店街の運営等については自分も知らないことが多いので 商店街の方に聞いてもらえればと思います。

※ 住民の結束力などについては、如何でしたでしょうか？

★ 結束力は強いと思います。しかし、それが女川町全体でとはいえません。活動が目に見えているグループの結束は強いのですが、どうしてもその中に加われない人達がいるのも事実です。

※ まちづくり協議会など行政・住民と相互の意見調整を行いながら復旧・復興のまちづくりを進める組織などは形成されていたのでしょうか？

形成されていたとしたら、その機能の有効性はどのようなものであったのでしょうか

★ 商工会や買受人組合等既にあった組織が復興に対する意見の取りまとめの中心となっていたと思います。

その中から女川町復興連絡協議会が震災後数ヶ月で結成され、きぼうのかね商店街の木造仮設店舗やエル・ファロの立ち上げに大きく関わりました。

<http://webronza.asahi.com/synodos/20130308000005.html>

<http://flat.kahoku.co.jp/u/volunteer12/KdQ5LupPMnWNETwGcob4/>

<http://blog.canpan.info/koho/archive/1901>

<http://michinokushigoto.jp/archives/5469>

<http://michinokushigoto.jp/archives/5471>

まちづくりワーキンググループとして昨年6月から協議をした結果の報告会が3/21にあります。

<http://www.town.onagawa.miyagi.jp/hukkou/working.html>

※ 復旧・復興の現在進行中という段階で、難しい状況もあろうかと思いますが、その中で特に大きな課題・問題点などありましたら、お聞きできればと思います。

★ 良く言われていることですが、町民の同意とスピード、どちらを優先させるのか、各自の立場や環境によって全く違います。

・嵩上げによる減災の効果が理解出来ません。

・潮の満引きのような水位の上昇であれば有効ですが今回のような津波の場合嵩上げしても斜面を遡上するので浸水域はそう変わらないのではと思われます。

加えて嵩上げた地盤が津波が来なくても圧密沈下や地震によって沈下する可能性もあり不安が大きいです。

・町から委託されたURや施工するゼネコンの担当者は正しく施工すれば大丈夫で実績もあると説明していますが。

以上、思いつくままに答えさせて頂きました。

女川町在住の阿部靖弘の体験に基づく回答です。女川町民が同様の意見とは限りませんのでご了承願います。後は現地で説明させていただければと思います。

参考資料として震災当日のブログとツイートを添付します。不適切なツイートもありますがご了承下さい。 [http://pub.ne.jp/abeyou/?entry\\_id=3651826](http://pub.ne.jp/abeyou/?entry_id=3651826)

<http://twilog.org/abeyou/date-110311>

(<mailto:yasuhiro@abeyou.com>)

阿部 靖弘

# 第95回防災まちづくり談義の会

日時：2013年4月26日（金）18時～20時

場所：神奈川大学 横浜キャンパス（六角橋）

1号館301号室（正門入ってすぐ）

参加費：無料

主催：防災塾・だるま（塾長：荏本孝久神奈川大学工学部教授）

ホームページ：<http://darumajin.sakura.ne.jp/>



『3.11被災地を巡るⅡ』 石巻・女川

発表とディスカッション！

テーマ：東日本大震災から2年 被災地の今と声を伝えよう

～明日の震災を生き抜くために～



※ 東日本大震災から2年が過ぎました。地域の絆、つながりの大切さがクローズアップされています。自分たちの目で被災地を見、肌で感じたこと、私たちが出来ることを探り、地域活動や地域防災、「災害に強いまちづくり」に活かしていきたいと思えます。

**\*発表とディスカッション、自由にご参加ください。**

司会者：FM湘南ナパサ パーソナリティー 山田美智子氏

《第95回 談義の会》 「3.11 被災地をめぐるⅡ 女川・石巻」報告会  
 テーマ：東日本大震災から2年 被災地の今と声を地域に伝えよう  
 ～明日の震災を生き抜くために～



幹事のみなさん：

- 山田(美)さん（総合司会）
- 田中(喜)さん（ツアー行程報告）
- 田中(晃)さん（報告会 PPT 作成）



参加者：21名（氏名省略）

- 行程・訪問先 3/24(日) (女川)女川商店街復幸祭、雄勝硯生産協同組合、大川小学校など  
 3/25(月) (女川) 旧女川町立病院、コンテナ村・きぼうの鐘商店街、  
 日和山公園、門脇小学校、山形屋商店など  
 3/26(火) (女川) 阿部養建設など  
 (石巻) 石巻社協、石巻ニューゼ(石巻日日新聞)、石巻観光協会など

1. 経緯：東日本大震災の被災地をほぼ縦断した「3.11 被災地を巡るⅠ(2012年3月)」で行けなかった女川・石巻訪問をぜひ次の機会に実現したいと考えていた。今回、「まみおの会」(代表：竹内麻未さん)の協力で実現した。

### 3. 参加者レポート



《山口(昭)さん》

- ◆現地を訪問して、漁業と観光の復興がカギを握ると感じた。
- ◆地盤沈下対策や防潮堤建設が進まない、復興特区構想についても議論があるなどで復興は進まない状況がある。進んでいる部分もあるが、人口が減少しており困難が多い。



《池田さん》

- ◆南相馬市に行った。原発事故の後そのままの状況が続き生活感を感じられない地域、立ち入り禁止が続く地域など、厳しい現実を見てきた。
- ◆復興にあたって、行政面での様々な制約をどう解決するかにもっと目を向けていくべきと感じた。



《岩楯さん》

- ◆石巻と平塚の協定は復興支援の仕組み作りとして参考になる。
- ◆石巻では、大学のキャンパス(石巻専修大学)が避難所として重要な役割を果たした。



《新井田さん》

◆神奈川県で保育園の仕事をしている。3.11 で子供たちの命がどのように守られたのか、自分たちが震災から子供たちの命を守るために何ができるのかをテーマに参加し、たくさんのことを学んだ。



《小原さん》

◆「コロンブス・アカデミー(本部：横浜市磯子区)」の石巻での支援事業（カキ養殖復興支援）を視察し、野球場に作った3階建ての仮設住宅も見てきた。



《佐々木さん》

◆女川商店街復興祭の準備や販売に協力してきた。  
◆うみねこハウスで頑張っている人たち、「東南海地震から子供たち・孫たちを守る」というテーマで石巻を訪れている人たち、高台移転に携わっている人たちなどに現場で会い、話を聞くことができた。



《石井さん》

◆津波で倒壊したコンクリート作りの建物や津波で流された巨大な石を目の当たりに見て衝撃を行けた。  
◆復興事業では、本来は地元の中小業者を起用することが重要なはずだが、大手の名前も目立ち、疑問を感じた。



《高江須さん》

◆今回現地を見て、学んできたことを、今後われわれ自身でどう生かしていくか・・・いま震災に会ったら避難や帰宅をできるのか、備えはできているか、考えさせられた。

## 6. ディスカッション



《神奈川県社会福祉協議会 事務次長：和泉さん》

◆社会福祉事業として復興支援の経験を積み重ねている。  
◆仮設住宅の「みまもり」は大きな課題。



《山口(章)さん》

◆被災地で見えてきたこと、現地の声を、自分のこととしてとらえて風化させないことを常に考えている。



《渡辺さん(まみおの会)》

◆参加したみなさんの話を聞いて、ツアー実現に協力できてよかったと感じた。これからも機会があれば「防災塾・だるま」と協力していきたい。

#### 4. まとめ（荻本塾長、山田(美)さん）



◆現場を見たこと、現場の声を聴いて感じたことを、自分たちのこととしてとらえて今後の行動に活かしていくことが大切。

◆復興には多くの困難があり、時間もかかる。行政に物申すだけでは解決できない。住民の意見を復興プランに反映するプロセスと、自立に向けての取り組みを支援するための社会的な仕組みを作らなければならない時期に来ている。

◆土地の権利関係をどう整理するのか、地積の問題など行政面での課題にももっと目を向けていくべき。

2013年4月26日 成松 洋記

# 『まみおの会』 これまでとこれから

5/6~5/13 石巻専修大学に滞在。支援物資の仕分けボランティア。そこで、いろいろな人と出会い、いろいろなものを見て、感じました。



「まみおの会」代表：竹内 麻未さん  
2012年12月21日

★石巻の女性に化粧品を届けよう！



たいていの化粧品は、おまかせしてあげたい



★石巻女川の商品を母校のお祭りで紹介しよう！



実際にこのお祭りに来てほしいです



2011年

5月

6月

7月

8月

9月

10月



★石巻を食べて応援しよう！



このお祭りに買ってきたお菓子を、ぜひ食べてほしい



★暖房器具を届けよう！



このお祭りに来てほしいです



10月

★仮設住宅を回って焼き立てメロンパンを食べてもらおう！



鎌倉復興市での商品販売（毎月第二、第四土曜日）  
日本橋 ZEN' 茶 fe・荻窪 with 遊での商品委託・  
復興応援メニュー開発依頼 etc.

ブログ『おながわ.me』 <http://onagawa.me/>

2012

出会ったお一人お一人に寄り添う支援を。

2月

3月

★女川復幸祭での出店

★愛とチョコレートを届けよう！



完売御礼!



チョコレートは、お土産に持って帰る人が多いから、お土産に持って帰る人が多いから、お土産に持って帰る人が多いから。



なんと「まみおちゃんにも出て欲しい！」とお呼びいただきました。個人で出店したのはマミオだけです♪

1. 5月18日

食と動物の感謝祭 @岐阜 に出店

2. 6月16日~17日

女川・石巻の商品をメニューに取り入れてくださっている日本橋のカフェオーナーと石巻女川の各社の訪問

<http://onagawa.me/wp/blog/2012/06/20/>

3. 8月31日~9月1日

「防災塾だるま」の方々を女川石巻にご案内

<http://darumajin.sakura.ne.jp/>

4. 女川秋刀魚収穫祭にメロンパン号で出店

5. 石巻・女川でパンの移動販売

\* 月二回鎌倉の物産展への出店、

鎌倉でのお祭りへの出店、開国祭への出店など

<http://onagawa.me/wp/blog/2012/07/29/>



手作りの看板や値札など…



**それいけ！まみおとしげぱんの移動パン屋さん♪第2回まみおの会よりみなさまへ**

前回は多くの方々に楽しみにお待ちいただきましたことを心より感謝申し上げますとともに、お待たせしてしまったり、ご希望のパンが完売しているなど不手際がありましたことを心よりお詫言申し上げます。今後も、みなさまに喜んでいただけますよう、改善しながら毎回本気で取り組んでまいります。お気付きの点がご遠慮なくご指摘いただけますと幸いです。石巻・女川にゆかりのない私たちですが、きれいな海、おいしいお魚、そして人々に魅了されています。どうぞこれからもよろしくお祈りいたします。



**まみおとしげぱん 移動パン屋さん**

東京は青山でも人気のパン屋  
しげくんに屋55バーカリーが  
おいしいパンをたくさん積んで  
石巻や女川をまわります!!

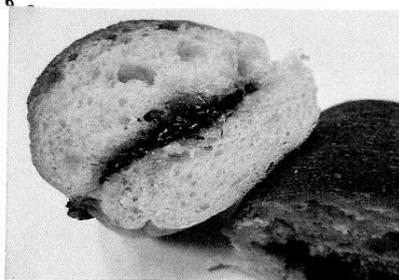
道先案内 まみおの会 ☺  
onagawa-uen@hotmail.co.jp

**12月11日(火)**

天候により中止します。  
ご了承ください。



いちご 🍓  
↓ ジャムパン ↑ 金時豆 🍓



**スケジュール (敬称略)**

- 7:00 山形物産商店 (P9町)
- 7:45 高橋徳治商店 (川口町)
- 8:45 清水
- 9:15 新田
- 10:00 マルシェ
- 10:45 マリンビル
- 12:15 サマホン 浦宿工場
- 13:30 サニ保育所跡
- 14:00 宮ヶ崎
- 15:15 きまろの釜

名回ごとに  
パンを  
本売いたします

⊗ 前回、パンが足りずご迷惑をお掛けした場所を再度巡回いたします。

山形物産商店(石巻)さんの  
みそ、しょうゆなども  
販売します!!



おれとお詫言!! 前回は多くの方々に楽しみにお待ちいただきましたことを心より感謝申し上げますとともに、お待たせしてしまったり、ご希望のパンが完売しているなど不手際がありましたことを心よりお詫言申し上げます。今後も、みなさまに喜んでいただけますよう、改善しながら毎回本気で取り組んでまいります。お気付きの点はご遠慮なくご指摘いただけますと幸いです。女川にゆかりのない私たちですが、きれいな海、おいしいお魚、そして人々の😊に魅了されています。どうぞこれからもよろしくお祈りいたします。  
2012年12月 まみおの会 ⊗ 石巻女川復興支援ボランティア

# 「防災塾・だるま」の紹介

HP : <http://darumajin.sakura.ne.jp/>



## ■ 防災塾・だるまの理念は

## 「地域で守ろう！みんなの命」

災害大国の日本において、市民が暮らす地域での防災意識の醸成は重要です。そのため他人事では無く、まず自分や家族の安全を考える自発的な防災意識を理解し、それに備えるための「活動の場」が必要です。「防災塾・だるま」は“防災情報の共有化と人的ネットワークの構築”を目的として、会員の皆さんが相互に負担を感じる事のない“緩やかな”繋がりの中で、自然に防災意識を高めていく活動を展開することを理念としています

## ■ 発足の経緯は

1995年の阪神・淡路大震災の教訓から、神奈川大学 荏本研究室で「地域防災まちづくり講座」が実施されました。その講座参加者の有志で勉強会「防災まちづくり談議の会」（月1回平日の夜）を開催し、さらに実践活動に移すため、グループ「防災塾・だるま」が発足しました。「防災塾・だるま」は“七転び八起き”からネーミングされました。

これから来るであろう大災害！  
生き抜くために何をどうすべきか？

## ■ 活動の目的は

- (1)防災活動を通じて相互の防災力向上を図る
- (2)防災の情報共有化のためのネットワークを作る
- (3)地域社会の防災まちづくりに貢献する

## ■ どのような活動をしていますか

- ①「防災塾・だるま」及び「防災まちづくり談議の会」の開催
- ②「実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座」の企画・運営
- ③学校防災及び地域防災のための協力講座の企画・運営
- ④行政に対し防災減災に関する意見提案
- ⑤各種イベントへの参加と地域防災活動への協力
- ⑥震災の復興支援とリスクマネジメント活動への参加
- ⑦震災被災地（神戸・中越・東北）との交流
- ⑧土木学会との交流など

## ■ どんなメンバーが参加できますか

自治会・町内会など一般市民の防災関係者が多く、行政やNPOの自主参加もあり、防災・減災ネットワークの人的拠点となっています。専門家とフランクに会話ができ、防災・減災に興味があり交流を希望する人、勉強したい人であれば「何でもアリ」で気楽に参加できます。



### 「防災塾・だるま」塾長 荏本 孝久

設立：平成17年  
会員数：102人(平成25年4月現在)  
年会費：正会員 1,000円  
賛助会員 5,000円(一〇)  
連絡先：池田 邦昭  
携帯：080-5007-0885  
E-mail：ikedakuniaki@c03.itsoom.net  
<http://darumajin.sakura.ne.jp/>

2012年12月27日 女川町宿泊村協同組合

## トレーラーハウス宿泊村「El faro=エル ファロ」(スペイン語=灯台)

所在地：宮城県 牡鹿郡 女川町 清水町 174～178

電話：0225-98-8703 F A X：0225-98-8708

e-mail：[elfaro365info@gmail.com](mailto:elfaro365info@gmail.com)

室内に入ると、シーリングファンが回る下には、たっぷりとしたツインのベッドと、ゆったり寛げるソファに コーヒーテーブル、そして幅 150cm の広いデスク。  
夜は隣のベッドを気にせずお過ごし頂けるように、アコーディオンカーテンと、  
それぞれのベッド上にペンダント式の上げ下げ自由なライトをご用意。  
まるで もうひとつの我が家のような そんな居心地の良さを感じて頂けるはずですよ。



天井の高いロフト無しのお部屋は 18.15㎡、  
秘密基地のようなロフト付きのお部屋は 23.25㎡と、  
ビジネスホテルではなかなか味わえない広々とした室内に  
30年以上 旅館を営んできた経験と想いをタプタプ詰め込みました。



### 編集後記

「防災塾・だるま」では、今年も3月「被災地を巡る-Ⅱ」を実施しました。  
昨年行くことが出来なかった、女川町や石巻市を訪問して、多くの方々にお話を伺い、  
現地を見ることで、貴重な学びを得ることができました。

今回、参加者それぞれのレポートも盛り込み報告書を作成致しました。

お世話になった女川町・石巻市の皆さまと、報告を寄せて頂きました皆さまに、深く感謝致します。現地で頂いた資料も、全ては掲載できませんでしたが、これからの防災の  
取り組みに少しでもお役に立てば幸いです。 編集担当：田中 喜世美

編集・製本のお手伝い頂きました、幹事：山田美智子さん・PPT:田中晃さん・印刷：片山晋さん  
他「防災塾・だるま」の皆様へ感謝します。 2013(平成25)年6月

# 「防災塾・だるま」

